

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	事故にあった子どもの状況										事故発生時の状況	事故の経過	負傷状況	受傷部位	診断名	事故原因	事故発生の要因分析								環境面 教育・保育・育成の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員 の動きを していたか	他の職員 の動き を していたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	掲載更新年月日										
							年齢	性別	特記事項	死亡	死因	負傷	原因	診断	誘因	ソフト							マニュアルの有無	事故予	防	修	職	員	配置	その他										要	因	分	析	特	記	事項	改善	策	施設
9921	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	17.	午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10													2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	特になし	安全対策の充実と保育士間の確認を毎回行う。個々の子どもをよき把握しておく。	1.定期的 に実施	実施頻度(月4)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度()回/年	再発防止について園内で検討を充実させ、定期的に検討する。飛び箱マツ運動の補助について子供達の状態をよき把握し、保育士間の連携を強化して、補助がしやすくなるようにする。	3.個人 活動中・見守り	この子どもの能力を十分理解し、安全対策の補助を必要に応じて提供し、補助がしやすくなるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	1.対象児とマンツーマン状態で対面していた	補助を行なった。補助をしながら見守っていた。	1.担当 者・対 象児の 動きを 見守り ていた	そばで見守っていたが、転倒した際に手を離した。	補助をしながら見守っていた。	もう一度、保育士間で補助の方法を再確認する。保育士間の連携を密にする。	
9922	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2.	朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15													1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首(踵)刺刺骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年 常時実施	2.基準配置	特になし	職員配置は問題なく、マニュアルに沿って対応しているため、改善策はなし。	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度()回/年	実施頻度()回/年	実施頻度()回/年	朝、子どもが園庭を出てきたときに、園庭の砂地が乾燥しているため、乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。	3.個人 活動中・見守り	園庭が乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	2.担当 者・対 象児の 動きを 見守り ていた	園庭が乾燥しているため、乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。	それぞれ遊びのスペースが確保されていたが、園庭が乾燥しているため、乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。			
9923	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2.	朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49	15	13	21											1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首刺刺骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(7)回/年	2.基準配置	特になし	職員が休んでいる保育士の代わりにより、8:30～12:30の時間帯に補助員が出勤した。	1.定期的 に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期 に実施	実施頻度()回/年	園庭の状況を確認し、子どもが遊ぶ際に注意を払っている。また、園庭の砂地が乾燥しているため、乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。	1.集団 活動中・見守り	園庭の状況を確認し、子どもが遊ぶ際に注意を払っている。また、園庭の砂地が乾燥しているため、乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	2.担当 者・対 象児の 動きを 見守り ていた	園庭の状況を確認し、子どもが遊ぶ際に注意を払っている。また、園庭の砂地が乾燥しているため、乾燥している箇所を定期的に水まきをすることにした。	事前に代わりに入る保育士の方から、園庭の様子を伝えていた。		
9924	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8.	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	2	4	3											2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右遠位機軸骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	今後も研修等を継続して行い、事故予防に努める。	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度()回/年	今後も研修等を継続して行い、事故予防に努める。	1.集団 活動中・見守り	子どもが遊ぶ場所を確保する。	3.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	園庭全体を見守り、子どもが遊ぶ際に注意を払っている。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見守り ていた	園庭全体を見守り、子どもが遊ぶ際に注意を払っている。	交代の際にも子どもを向ける。		
9925	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9.	午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19													2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根骨折(上顎前)	3.子ども同士によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	運動会での練習や声掛けの練習を、子ども達と一緒に行なう。また、園庭での活動時も、子ども達の安全を確認しながら行う。	1.定期的 に実施	実施頻度()回/年	1.定期的 に実施	実施頻度()回/年	1.定期的 に実施	実施頻度()回/年	園外活動での練習や声掛けの練習を、子ども達と一緒に行なう。また、園庭での活動時も、子ども達の安全を確認しながら行う。	1.集団 活動中・見守り	園外活動での練習や声掛けの練習を、子ども達と一緒に行なう。また、園庭での活動時も、子ども達の安全を確認しながら行う。	3.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	園外活動での練習や声掛けの練習を、子ども達と一緒に行なう。また、園庭での活動時も、子ども達の安全を確認しながら行う。	練習後、本児にお茶を淹れ、保育士と一緒に行なう。	2.担当 者・対 象児の 動きを 見守り ていた	園外活動での練習や声掛けの練習を、子ども達と一緒に行なう。また、園庭での活動時も、子ども達の安全を確認しながら行う。	練習後、本児にお茶を淹れ、保育士と一緒に行なう。	練習後、本児にお茶を淹れ、保育士と一緒に行なう。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制	発生時の体制										教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園 教諭・保育士・放課後 児童支援員	事故にあった子どもの 年齢			事故状況 発生時状況	事故の転帰	診断名	事故 誘因	事故発生の要因分析						ハード面				環境面 教育・保育・ 育成支援の 状況	人面的 対象児の動き 理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員 の動き 何をしていたか	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	掲載 更新 年月日									
							人数											年齢	性別	特記事項					死亡	負傷 状況	受傷 部位	ソフト 面	事故予 防研修 実施頻度 【回/ 年】	職員 配置	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度 【回/ 年】	遊具の安全点検 実施頻度 【回/ 年】								玩具の安全点検 実施頻度 【回/ 年】	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	環境面 教育・保育・ 育成支援の 状況	人面的 対象児の動き 理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員 の動き 何をしていたか	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童 その他	年齢	性別	特記事項																																		
9932	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									1	16.4歳	1.男児	なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指指節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施頻度(2回/年)	2.基準 配置	特になし	特になし	1.定期的 実施頻度(2回/年)	1.定期的 実施頻度(2回/年)	1.定期的 実施頻度(2回/年)	1.定期的 実施頻度(2回/年)	特になし	特になし	6.食事(おやつ)中	本児の座る場所を保育士の見やすい場所にするかトラブルを本児の近くで起すことを見える場所で見えなかつた。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	2週間ほど欠席をし、その後落着きが普通から戻らなかった。	園児間でトラブルが起きたため、体態対応の保育士はトラブルの対応をしていない状況であった。	4.対象児の動きを見えなかつた	2.担当者・対象児の動きを見えなかつた	他の職員ははいなかった。	他児に対しては全体の動きを把握することができていなかった。	視野を広げ、常に全体の動きを把握できるように職員間で話し合った。			
9933	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地外(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									2	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨頸上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 実施頻度(2回/年)	1.基準 以上配置	階段を降りるときは、慌てず落ち着いて降りるよう全員に声を掛ける。	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(1回/週)	1.定期的 実施頻度(1回/週)	1.定期的 実施頻度(1回/週)	怪我が発生した手すりには、壁とてすりとの間の幅が狭くなるよう工事を行った。	3.個人活動中・見守りあり	階段を下りるときは、慌てず落ち着いて降りるよう全員に声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらなかつた	4.対象児の動きを見えなかつた	先頭保育士は、下駄箱付近にいたため、見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見えなかつた	階段付近に職員は、いなかった。	部屋から出る時、双方の保育士が階段を降りている様子を確認する。						
9934	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	16									3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 実施頻度(5~6回/年)	2.基準 配置	事故発生後、骨折が判明するまで日にかかっていた。初めに受診、医師の診断を受けたという事実で大丈夫だと思いついた。	1.定期的 実施頻度(11回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	2.不定期 実施頻度(24回/年)	1.定期的 実施頻度(24回/年)	園庭の凸凹や小石など、園児数に対して十分な広さがない。	1.集団活動中・見守りあり	追いかけあそびをしていた。	一人一人の子どもの姿や動きを観察していた。	1.いつもどおりの様子であった	特に疲れや変化は見られなかつた。	2.対象児の動きを見えなかつた	集団遊びに子どもが参加したため、それぞれの動きを確認し、けががないか確認した。また、子どもが自分で遊ぼうとしたため、見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見えなかつた	転倒した子どもは、けががなかったが、声を出さなかつた。	園児の転倒があったため、職員にも確認する。					
9935	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5									1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施頻度(12回/年)	2.基準 配置	特になし	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	特になし	1.集団活動中・見守りあり	環境の直視し、時間のゆとり、空間のゆとりを考慮し、子どもを遊ばせる場を確保し、行動についてシミュレーションしておく。	環境整備された保育室の中で対象児は安心して遊べていた。食事前の準備中、保育士が対象児の動きを見えなかつた。	2.対象児の動きを見えなかつた	2歳児クラス5名を見守りしていた。対象児の動きを見えなかつた。	担当職員の給食準備の手伝いをしていたが、他の保育士にも準備を任せていた。	担任一人で対応することが多いため、何かあるときは応援体制を確保しておく。								
9936	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29	7	3	5	10	4				5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の不備によるもの	1.あり	1.定期的 実施頻度(12回/年)	2.基準 配置	特になし	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	1.定期的 実施頻度(12回/年)	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭の環境がその都度変化することもあるため、遊ぶ前には安全確認をする。	園庭で対象児は探索行動をしていた。立ちまわっている竹に興味をもち、触つてみた。	4.対象児の動きを見えなかつた	担当職員は園庭全体を見ていて対象児の動きを見えなかつた。	2.担当者・対象児の動きを見えなかつた	年少組担当職員が手を押さえていたため、手を離した。その後、手の状態を確認し、異変は見られなかつた。	園庭では広い範囲を見守るため、職員の間隔を広く確保する必要がある。							

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	事故にあった子どもの											事故状況											事故発生の要因分析											掲載更新年月日											
							年齢	性別	特記事項	状況	発生時状況	死亡	原因	負傷	状況	受傷部位	診断名	誘因	ソフト面			ハード面		環境面			人的面		改善策	改善策	改善策	改善策																			
																			マニュアルの有無	事故予防	研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・特記事項	改善策	施設の安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検					その他要因・特記事項	改善策	教育・保育・支援の状況	その他要因・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動き		他の職員	その他要因・特記事項	改善策								
9937	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2.	午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等) 4.3歳児クラス	12	0	1	2	3	4	5	9	1	1	16.4	2	女児	当日の天気は晴時々曇り、前日は雨で園庭は少し濡らかった。(ぬかるみ等はなし)	1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節軟骨損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園庭で遊ぶ際には、保育士は2人以上配置し、十分な見守りができるようにする。	1.定期的実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的実施	実施頻度(4)回/年	雨上がりだったが、ぬかるみはなかった。雨上がりにはいつもより濡らかったため、つまづいたのかもしれない。	1.集団中・見守りあり	1.園庭に砂場・遊具などあり	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを別の子どもと話をしながら、全体の様子を見ていた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	卒園記念撮影準備のため、園庭には1名だけだった。	他に園庭には見守りが不足していた。	園庭に保育士1人になることのないよう、保育士等が声を掛けし、フローリングに入っても					
9938	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	11	午前中	1.施設敷地内(室内)	14									2	16.4	1	男児	本児と友だちと遊ぶ際に、本児が友だちの遊びに干渉し、友だちを驚かす行為をしていた。	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	トラブルになりそうなお友だちを離すこと、友だちに遊びの提案をできるようにする。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(毎日)回/年	日常の中でも扉の閉め忘れがある。	1.集団中・見守りあり	本児が友だちに対して拒否した態度をとったことで、友だちも悲しい表情を見せていた。	扉の閉め忘れは保育士が管理すること、閉め忘れの際は、周囲の状況をよく把握すること。	他児は、朝の集まりをして本児に参加し、ブロック遊びを続けていた。	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	本児と一緒に遊んで遊んだため、本児の要求にはすべて答えてあげることが出来たが、扉の手を握っていたことを見逃していた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	朝の集まりをして、本児については保育士に任せていた。	本児と一緒に遊ぶことが出来なかった。	友だちの気持ちはもちろん、本児と気持よく遊ぶような働きかけをしていくこと。			
9939	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	38	8	9	10	11				4	3	17.5	2	女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施	実施頻度(回)回/年	2.基準以上配置	危険の要素がある時は速やかに状況を把握し、移動して必要であれば職員間で話し合う。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	危険の要素がある時は速やかに状況を把握し、移動して必要であれば職員間で話し合う。	1.集団中・見守りあり	本児は日頃より危険を伴うような遊びをする子で、他に注意しなかった。	特に危険な状況ではなかった。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室のステージ付近で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の園庭遊びを見ていた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった	他の園庭を見守っていた。	日頃から危険を伴うような遊びをする子で、注視して見守るような状況ではなかった。	状況に合わせて職員間で連携を取りながら、子どもの様子を確認できるようにする。		
9940	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9								3	14.2	1	男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	後頭部裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1.3)回/年	1.基準以上配置	園内外問わず、子どもの動きと危険についての予測を行い、子どもを見守りながら、必要な声掛けや誘い掛けを行う。	1.定期的実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	1.集団中・見守りあり	特になし	園児の動きを見ながら危険を予測し、返答に声掛けをする	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく散歩を楽しんでいた	2.対象児の動きを見ていなかった	子どもが公園トイレの通路に入り、走り始めたため、場所を移動しようとしたが、子どもが近距離にいた。	1.担当・対象児の動きを見ていなかった	子どもを走り回らせないよう、近距離にいた。	特になし	子どもの動きと周囲の環境から考えられる危険について、注意を怠らなく、子どもの様子を確認できるようにする。			
9941	令和6年3月21日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	33								4	2	18.6	1	男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左目近くの顔面創傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	安全にかけこめられる場所を教師が生徒に指導し、遊具の周辺で走らない。	2.定期的実施	実施頻度(数)回/年	2.定期的実施	実施頻度(数)回/年	2.定期的実施	実施頻度(数)回/年	地面に飛び入りやめくわはなかった。	1.集団中・見守りあり	特になし	すべての生徒の動きを見守るよう努める	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気だった	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ場所に行ったが、生徒を見ていなかった	1.担当・対象児の動きを見ていなかった	生徒の転倒を自覚し、転倒を止めたが間に合わなかった。	特になし	安全な生徒の動きを確認し、安全を確認する		
9942	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	17	午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	60	0	0	16	25	19	0		6	6	17.5	2	女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指基節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準以上配置	戸外遊び時の保育士の配置を再度確認し、役割分担を行い安全に遊びをさせる。	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的実施	実施頻度(1.2)回/年	ブランコの周りに設置してあるので、使用が自由ではなく制限される	1.集団中・見守りあり	特になし	発達に合わせた遊び方をしているかを確認し、年齢に応じた遊び方をできるようにする。	1.集団中・見守りあり	タイヤの置き方を再確認し、全体的に確認し、早期発見できるようにする	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特になし	他児の対応や他を介して、事故瞬間の対象児の動きは把握できていない	保育士の立ち位置について再度確認し、全体的に確認し、早期発見できるようにする	保育士の立ち位置について再度確認し、全体的に確認し、早期発見できるようにする	

No	初回掲載年月日	概要		施設・事業体制														事故にあった子どもの状況			事故状況		事故発生の要因分析										掲載更新年月日																					
		認可認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所	発生時の施設・事業体制														年齢	性別	特記事項	状況発生時状況	死亡	ハード面		ソフト面		その他要因・分析・特記事項	改善策	環境面			人的面		改善策																		
						人数	異年齢構成の場合の内訳																		施設的安全点検		用具的安全点検				玩具的安全点検			その他要因・分析・特記事項			改善策		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析・特記事項									
9943	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	2	8	12	7	8	8													7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左小指爪剥離、裂傷、神経損傷	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	貼り紙や手紙などで保護者へ啓蒙をする	1.定期的 実施頻度(1)回/年	1.定期的 実施頻度(2)回/年	1.定期的 実施頻度(1)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	門柱と壁の間にフェンスを取り付け、通り抜けできないようにした。門を閉めて押しても開かないようにストッパーを設置し、門の押印の表示を大きくした。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	特になし	1.いつもの様子であった	降園後なので高揚していた	4.対象児の動きを見なかった	降園後のため	2.担当者・対象児の動きを見なかった	降園後のため	保護者が保護者の行動を把握できていなかった	保護者に降園時の注意事項を指示し、再発防止に努めた。
9944	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				17	16	17													1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準配置	本児が女だちの鉄棒で遊んでいる時の職員の見守り状況を確認できなかった。これからの子どもの遊び方について、危険な遊び方をしていることが十分配慮できていなかった。	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(1)回/年	実施頻度(12)回/年	実施頻度(12)回/年	3才児であり、まだ十分な体の発達状況ではないが、危険な遊び方をしていること、やり方を認めるように十分配慮をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもの様子であった	普段通りに登園し、いつもの様子で友達と元気に遊んでいた	3.対象児から離れたところで見守っていた	3~5才児で自由遊びをしながら、それぞれ遊びを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	3~5才児混合で自由遊びをさせており、園庭に出ている4人の保育士がそれぞれの子どもの動きを見守っていた	異年齢混合で遊んでいる時の職員の見守り状況を確認できなかった。	混合保育の場合の職員配置について、職員間の連携を事前に確認しておく。		
9945	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34																		1.屋外活動中	1.負傷	3.体幹(首・胸部・腹部・腕部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回程度/年	2.基準配置	特になし	安全保育についてのマニュアルの読み合わせをすること、再確認をしたり、引き継ぎを徹底すること、事故防止について話し合いの機会を持つようにしたりする。	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(2)回/年	実施頻度(200)回/年	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもの様子であった	毎朝整園が遅く、この日も9時30分過ぎの整園だった。日頃から動きが大きい、落ちやすい、注意喚起もあまりない、改善する点が多い。	3.対象児から離れたところで見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	年度末の雰囲気や慣れたように職員も余裕がなくなってきた。園児も何となくふわふわした気持ちで遊んでいる子もいる。	年度末の雰囲気や慣れたように職員も余裕がなくなってきた。園児も何となくふわふわした気持ちで遊んでいる子もいる。	年度末の雰囲気や慣れたように職員も余裕がなくなってきた。園児も何となくふわふわした気持ちで遊んでいる子もいる。					
9946	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設教室内(室内)	1.0歳児クラス	9																		2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	隣と一緒に後ろ向きで降りている子を見たりして周りに気を取られないように声をかけたり、事故があった時は職員4名揃って降園した。	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(1)回/年	実施頻度(12)回/年	実施頻度(12)回/年	階段については、普通には昇り降りする際の安全は確認できたので、改修等は行わない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	1.いつもの様子であった	2階のホールでボールを追いかけていた。ボールの山を降りてきたので、安全面に落ちてしまった。手をついて降園した。	2.対象児から離れたところで見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	後ろ向きで降りる時、降り方が不安定な子一人について一緒に降園した。	階段を降りる時、降り方が不安定な子一人について一緒に降園した。					
9947	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	0	0	15	13	8	0													1.屋外活動中	1.負傷	4.上肢(腕・手・手指)	左小指指骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	なし	園庭で遊ぶ前は準備体操を行うことを職員間で統一する。	1.定期的 実施頻度(48)回/年	1.定期的 実施頻度(48)回/年	1.定期的 実施頻度(48)回/年	実施頻度(48)回/年	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	1.いつもの様子であった	ドッジボールの取り方を教え、手首や足首を回して準備運動を行う。	3.対象児から離れたところで見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	他の遊具の取り方をみたり、砂場で遊ぶ見守りしていた	保育士は子どもの遊ぶ様子を見守りできるようにする。また、子どもたちは身体に痛みや異常を感じた時点ですぐに保育士へ知らせることを確認する。				

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析											掲載更新年月日																					
						発生場所	発生時の体制	年齢構成				内訳			教育・保育等従事者				年齢	性別	特記事項	状況	転倒	死亡	負傷	診断名	事故誘因	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要 因・分析 事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援 状況	その他要 因・分析 事項	改善策		人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に 何をしていたか	他の職員の動き 具体的に 何をしていたか	その他要 因・分析 事項	改善策																
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	保育士	幼稚園教諭																								保育士	放課後児童支援員	状況	転倒	死亡	負傷	診断名	事故誘因	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要 因・分析 事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援 状況	その他要 因・分析 事項	改善策
9948	令和6年3月21日	認可外	18. その他の認可外保育施設	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10(小規模2)													2	2(2)	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	手首の骨折	3. 子ども同士によるもの	2. なし	1. 定期的実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	自由遊びの時間の遊び方について細かい規制がない	新園舎になり危険な箇所が減っているが手籠ごと危険な箇所や危険な遊び方などをピックアップしてマニュアルを作成する予定	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(50)回/年	廊下からホールへ行く導線が90度曲がる必要がある	机などを置く場所を検討し、狭くなる場所を減らす	3. 個人活動中・見守りあり	3. 個人活動中・見守りあり	部屋を出入りし追いかけていた	広い場所、ホールや園庭で鬼ごっこをする様子を話す	1. いつもの様子であった	土曜日で少人数で遊ぶことになり逃げかけたりしていた	3. 対象児から離れたところで見守っていた	他児と関わりながら本児の動きを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わりなかった	年齢が高かったため目を配らなかった	一緒に遊ぶ時は声を掛ける
9949	令和6年3月21日	認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地外(園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	18													2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	年度末で職員も、子どもの気持ちのゆるみがあったと考える	危機管理の意識を常に持ち続けることができれば、職員間で啓発し続ける。	1. 定期的実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	手を離さないことを約束していたが、職員が慌ててきて、対象児にも余裕がなかった	鉄棒をすくるときに約束事について、クラスで話を合意し合っていた(理由を記載)	3. 1つより活動的であった(理由を記載)	本児は、鉄棒で遊んでいるときに、他の遊びに興味を示して、鉄棒を離れてしまった	1つの鉄棒に子どもが複数お入りし、対象児と担当職員との間に距離があった	2. 対象児に近づく様子があった	1つの鉄棒に子どもが複数お入りし、対象児と担当職員との間に距離があった	近くで見守っていた他の職員が鉄棒を補助するために、対象児に近づきすぎてしまった	子どもが鉄棒を歩かず、補助がうまくいかなかった		
9950	令和6年3月21日	認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地外(園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	20													5	4	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	高い遊び場からジャンプして落下した際に、この日も55cmの高さのジャンプができたが、保育士が目を離したままだったこと、対象児の体質や発達特性が関係している可能性がある	顔々の発達を理解し、今はジャンプをするときは2. 3段階で確認し、子どもたちの意識が安定するまでにはまだまだ時間がかかる可能性がある	1. 1つのおもちゃの状態で遊んでいた	本児に手を添えてジャンプをする本児に寄り添っていた	1. 対象児とマンツーマンの状態で遊んでいた	他の保育士は子どもたちを誘導していた	55cmの高さを飛べないという認識がなかったこと、本児のやりすぎたことの原因としてあげられる	発達を理解し適切な援助をする			
9951	令和6年3月21日	認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地外(園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	24													3	3	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(2~3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(350)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	体調は良く、園庭遊びを楽しんでいた。遊んだ後のブランコが空いたので、ブランコに乗りたい気持ちがあった	2. 対象児に近づく様子があった	園庭で遊ぶ園児たちの様子を見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭でそれぞれ距離をおきながら遊んでいた。遊んで園児たちが見守っていた	特になし	特になし		
9952	令和6年3月21日	認可	3. 保育所型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21													1	1	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	該当なし	該当なし	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1. 集団活動中・見守りあり	該当なし	該当なし	鬼ごっこを行う場所の状況や安全確認、活動中の危険回避する声掛けも必要。	本児は好奇心旺盛で活発。何事も意欲的に取り組んでいる。事故発生時も友だちと遊んでいた様子であった	1. 1つのおもちゃの状態で遊んでいた	遊戯室全体を見渡せる場所でも、子どもの動きを見ていた(至近距離にいた)	2. 対象児に近づく様子があった	遊戯室全体を見渡せる場所でも、子どもの動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこに参加し全体を見守っていた	該当なし	鬼ごっこ等の活動的な集団遊びは、転んだりぶつかったりする場面もあるが、回避する方法や転倒した時の対応の仕方など、このような場面には知らせていない

No	概要			施設・事業体制													事故にあった子どもの状況			事故発生時の状況							事故発生時の要因分析										掲載更新年月日				
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所	施設・事業体制		発生時の体制					教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	事故発生状況		事故の経過					ソフト面		ハード面		人的面			改善策								
						実施状況	体制	人数	異年齢構成の場合の内訳	その他	主任	その他	保育士	教諭	補助員				負傷状況	負傷部位	診断名	事故原因	原因	経過	経過	経過	経過	経過	経過	経過	経過	経過		経過	経過	経過		経過	経過		
9966	令和6年3月21日	認可	認可保育所	4月 2. 午前中	3. 施設敷地外(園外・公園等)	5. 4歳児クラス	17								3	3	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕外骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(1回/年)	1. 基準以上配置	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的実施	実施頻度(1)回/年	1. 集団活動中・見守りあり	進級してからの使用が初めての公園でも遠くまで立っていた面がある。	遊具の動きを見ていたか	担当職員の動きを見ていたか	他の職員の動きを見ていたか	その他要因・分記事項	改善策	令和6年3月21日
9970	令和6年3月21日	認可	認可保育所	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室内・校庭等)	7. 異年齢構成	20	1	4	2	3	5	5		4	6	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 定期的実施	実施頻度(2.4)回/年	2. 基準配置	1. 定期的実施	実施頻度(1)回/月	1. 集団活動中・見守りあり	遊具の遊び方が慣れてきたが、改めて遊び方を確認し、保育者の配置等にも気を付ける。	遊具の動きを見ていたか	担当職員の動きを見ていたか	他の職員の動きを見ていたか	その他要因・分記事項	改善策	令和6年3月21日		
9971	令和6年3月21日	認可	認可保育所	4. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	36					12	12	12	5	5	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 定期的実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	1. 集団活動中・見守りあり	遊ぶ場所の広さを確保。 (周りに何もありません。転倒の恐れがないか)	対象児が床を滑り落ちて平均台の上でバランスを崩した。その際に、対象児の手足が落ちてきた。	対象児の動きを見ていたか	担当職員の動きを見ていたか	他の職員の動きを見ていたか	その他要因・分記事項	改善策	令和6年3月21日	
9972	令和6年3月21日	認可	認可保育所	3. 7. 午後	2. 施設敷地内(室内・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	55								3	2	18. 6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足指外骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(1.2)回/年	2. 基準配置	1. 集団活動中・見守りあり	我が子をしながら遊ぶという意識を持って遊ぶ。また、園児の行動についての情報も職員間で共有する。	友達と追いついて遊ぶこと	対象児の動きを見ていたか	担当職員の動きを見ていたか	他の職員の動きを見ていたか	その他要因・分記事項	改善策	令和6年3月21日			
9973	令和6年3月21日	認可	認可保育所	3. 2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13								2	2	18. 6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷	6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左手中手骨骨折(人差し指、中指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 定期的実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	1. 集団活動中・見守りあり	運動遊びの日は5歳児には担任の他に補助員が1名付いていた。	運動遊びの前には必ず安全点検済みであった。遊具の問題無し。	マットの下に落ち止めの敷き物を敷いた。落ち止めの敷き物がない場合は落ち止めの敷き物を敷く。	対象児の動きを見ていたか	担当職員の動きを見ていたか	他の職員の動きを見ていたか	その他要因・分記事項	改善策	令和6年3月21日		

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢		事故状況 発生時状況	事故の転帰				事故発生の要因分析										掲載更新年月日									
						発生時の人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	死亡	転亡		負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面		ハード面		環境面		人的面		改善策										
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上													マニュアルの有無	事故予防	研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】			玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き理由	担当職員の動きを何をしてきたか	他の職員の見守り
9978	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	12	8	15	3	2	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	子どもと遊んでいる最中に子どもが急に走り出し、保育士が追いつけず、子どもが転倒した。	1.定期的 実施頻度(3)回/年	1.定期的 実施頻度(3)回/年	1.定期的 実施頻度(3)回/年	1.定期的 実施頻度(3)回/年	園庭の段差等	7.その他	園庭の段差を認識し、子どもが走り出す前に声をかけ、子どもを止めた。	園庭の段差を認識し、子どもが走り出す前に声をかけ、子どもを止めた。	1.いつもどおり様子であった	3.対象児から離れたところで見守りしていた	対象児付近にも保育士がいたが、対象児の動きを見失った。	2.担当者が対象児の動きを見失った	他の園児の様子を見守りしていた	園庭の安全を見守りしていた	本児は動きが普通から激しく、対応が難しい。	園庭の不適切な動きに対する対応が難しい。
9979	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19	6.5歳以上児クラス	1	1	17.5歳	2.女児	7.登園・降園中(菜園・帰宅中)	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	降園後、園庭などで遊ぶ際に、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	1.定期的 実施頻度(2.4)回/年	1.定期的 実施頻度(2.4)回/年	1.定期的 実施頻度(2.4)回/年	1.定期的 実施頻度(2.4)回/年	4.個人活動中・子どものみ	なし	降園後の園庭で遊ぶ際に、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	降園後の園庭で遊ぶ際に、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	1.いつもどおり様子であった	3.対象児から離れたところで見守りしていた	降園後の園庭で遊ぶ際に、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	2.担当者が対象児の動きを見失った	母親が約束を守って、安心して遊ばせていた。	なぜ約束事として降園後は園庭での遊びを禁止しているかを保護者に伝え、見守りに注意喚起し、危機意識を持たせる。				
9980	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	133	8	20	18	31	25	32	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジニア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 実施頻度(1.2)回/年	2.基準配置	本人の身体能力や、一年前も骨折している現状	1.定期的 実施頻度(1.2)回/年	1.定期的 実施頻度(1.2)回/年	1.定期的 実施頻度(1.2)回/年	3.個人活動中・見守りあり	見守り片寄ったか。	園庭で遊ぶ際の遊具の安全性を確認した。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	母親が出席すること、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	4.対象児の動きを見失った	担任は本児から離れた場所にいるため、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	1.担当者が対象児の動きを見失った	本児が泣いていて、抱き上げて不安な様子があった。	園庭での危険な行動をしていないかを確認し、必要に応じて見守りが必要であった。			
9981	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18	0	1	5	3	6	0	7	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	危険予知の能力を高め、危険を回避できるようにする。	1.定期的 実施頻度(1)回/年	1.定期的 実施頻度(6)回/年	1.定期的 実施頻度(6)回/年	1.定期的 実施頻度(6)回/年	7.その他	特になし	降園時、園庭で遊ぶ際に、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	いつも通り様子であった	4.対象児の動きを見失った	保育士はそれ以外の保育士が気づかず、子どもが転倒した。	2.担当者が対象児の動きを見失った	勤務時間後で保育士が少なかったため、園庭中の様子を見失った。	遊具で遊ぶ際の危険な行動をしていないかを確認し、必要に応じて見守りが必要であった。	
9982	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設教室内(室内)	7.異年齢構成	9	1	3	5	3	3	14.2歳	2.女児	7.登園・降園中(菜園・帰宅中)	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足打撲傷、左第1中足骨骨折、左下腿打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 実施頻度(1~10)回/年	2.基準配置	改善策は特になし	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.個人活動中・見守りあり	遊び終了後、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	1.いつもどおり様子であった	4.対象児の動きを見失った	保育士との話を終え、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	2.担当者が対象児の動きを見失った	3名の保育士が、室内の遊具で遊ぶ際に、保育士が気づかず、子どもが転倒した。	保育士が話を終えた後、目を離さず見守りをする必要があった。					
9983	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設教室内(室内)	1.0歳児クラス	4					2	13.1歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	活動内容によって保育士配置を増やしたり、その対応が難しい場合は活動を変更する。	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.集団活動中・見守りあり	広い場所を走る際、スピードが出たので、スピードを出さないように指導した。	1.いつもどおり様子であった	2.対象児の動きを見失った	保育士2名で保育していたが、1名はピアノを弾きながら見守り、もう1名は子どもと一緒にリズム運動の動きを見失った。	他クラスは雪遊びをしていた。クラス担任以外の職員は各自の業務にあっていた。	事故発生時の活動内容によって、保育士配置を増やす。その対応が難しい場合は活動を変更する。					

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業 種別	事故発生 時期 月	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	事故にあった子どもの状況												事故発生時の状況											事故発生 年月日
							年齢	性別	特記事項	状況	事故の転帰			診断名	事故 原因	事故発生時の要因分析														
											死亡 原因	負傷 状況	受傷 部位			ハード面	ハード面			その他 要因・分 析・特記 事項	改善策	環境面	人的面	改善策						
																	施設 の安全点 検	遊具 の安全点 検	玩具 の安全点 検						施設 の安全点 検 【回/年】	遊具 の安全点 検 【回/年】	玩具 の安全点 検 【回/年】	その他 要因・分 析・特記 事項	改善策	
人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等 従事 者 うち 保育 教 諭・幼 稚 園 教 諭・保 育 士・放 課 後 児 童 支 援 員	ソフト 面 【回/年】	事故予 防 修 繕 度 【回/年】	職員 配 置	その他 要 因・分 析・特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の安全 点検 【回/年】	ハード面 遊具 の安全 点検 【回/年】	ハード面 玩具 の安全 点検 【回/年】	その他 要 因・分 析・特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	人的面 対象児の 動き理 由	改善策									
9989	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27																		子どもの遊びを少しの間で声を掛けさせ、見守り位置を子どもに合わせ、保育士の目が届くように見守りを行う。				
9990	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12																	職員は児から目を離さない、見守れないときは他の職員を頼む。ピアノを弾いて職員が危険を察したら、ピアノを弾くのを止めて走って助ける。					
9991	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	3.昼食(おやつ時)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29																	職員同士の手を繋いで、常に目を離さないように注意し、安全確認を徹底させる。					
9992	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27																	落ち着いて歩くように指導する。					
9993	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16																	子どもと遊びながら、常に安全確認を徹底させる。					
9994	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45																	園庭には多くの園児がいたため、1人の園児の動きに注意し、安全確認を徹底させる。					

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況 発生時状況		事故発生の要因分析										掲載更新年月日																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者					年齢	性別	特記事項	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	ハード面		ソフト面		職員配置	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策		ハード面		ソフト面		環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	人的面		改善策										
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	保育士	幼稚園教諭									保育士	放課後児童支援員	施設安全点検 【回/年】	遊具安全点検 【回/年】					玩具安全点検 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	施設安全点検 【回/年】				遊具安全点検 【回/年】	玩具安全点検 【回/年】		その他要 因・分 析、特 記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員の動き 何をしていたか	その他要 因・分 析、特 記事項	改善策			
9995	令和6年3月21日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	3	4	7	8	6	5				3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の脛骨骨折(ひび)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施 実施頻度(1,2)回/年	1.基準以上配置	特になし	本児は階段を上る際にしっかりと足を上げようとしていたが、本児が意識できるような状態に陥り、階段の踊り場から落下した。本児は階段を上る際にしっかりと足を上げようとしていたが、本児が意識できるような状態に陥り、階段の踊り場から落下した。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(264)回/年	1.定期的実施	実施頻度(264)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもおりの様子であった	当該児童に、いつも通りの様子でも問題なく園生活を送っていた。	3.対象児から離れたところで見守っていた	一階のクラスには23名の園児がおり、職員は、1名の職員がいた。移動の際には23名の保育士で対応移動をした。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	移動の際、他園児の補助対応をしていた。	特になし	特になし
9996	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									2	1	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第4指末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的実施 実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育室に戻ると、右手を残したまま引き戸を閉めたため、引き戸が閉まらなかった。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	実施頻度(日々)	引き抜き、施設設備等に不具合等がないか点検を実施し、不具合がある場合には都度対応していく。	7.その他	見守り不足が考えられる	視野を広くもち見守るよう心がけていく	1.いつもおりの様子であった	対象児は、おぼろげな様子であった	4.対象児の動きを見守っていた	随時登園して、園児の動きを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	随時登園して、園児の動きを見守っていた	随時登園して、園児の動きを見守っていた	見守り不足が考えられる	視野を広くもち見守るよう心がけていく	
9997	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16									4	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施 実施頻度(12)回/年	2.基準配置	遊び方を知らなかったが、年齢に応じた発達遊びの提供を受ける。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	実施頻度(日々)	玩具を押して遊ぶ際には、遊戯室などで広い部屋で遊ぶ。	1.集団活動中・見守りあり	手作り椅子を押しつぶした際に、腕が挟まれた。	遊び方を知らなかったが、年齢に応じた発達遊びの提供を受ける。	1.いつもおりの様子であった	手作り椅子を押しつぶした。	3.対象児から離れたところで見守っていた	手作り椅子を押しつぶした際に、腕が挟まれた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	他児と一緒に遊んでいた。	施設の職員で保育していたが、危険が感じられなかった。	子どもの行動を注視して、保育士が同様に注意を払う。		
9998	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	頭部挫傷	3.子ども同士によるもの	1.あり	1.定期的実施 実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	歩くときは、前を向いて歩くと知らせる。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	実施頻度(日々)	遊びに必要のものか、それらは危険ではないかと確認し、声をかけようとした。	1.集団活動中・見守りあり	その場所に気が付いていないで、保育士もいない状態で遊んでいた。	気が付いたときに声をかけようとした。	1.いつもおりの様子であった	保育士や一緒に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで見守っていた	担当保育士は、少人数で遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	他児の方を見ていたため、対象児は見ていなかった。	特になし	注意が散漫な子どもを把握し、声をかけていく。		
9999	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左Aの外傷(性歯の打撲)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施 実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	職員配置は十分だったが、子どもの動きを予想しきれていなかった。	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期的に実施	実施頻度()回/年	特になし	1.集団活動中・見守りあり	落ちてくっつきやすくなるよう、マットを敷く。	1.いつもおりの様子であった	一人で太鼓橋を渡っていた。	2.対象児の至近で対象児を見守っていた	太鼓橋の近くで、本児の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見守っていた	太鼓橋以外の固定遊具(ブランコや滑り台など)のそばに、子どもたちの遊びの様子を見守っていた。	特になし	職員同士が連携し、立ち位置などに配慮する。				

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢		性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析							環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	掲載 更新 年月日								
						人数	異年齢構成の場合の内訳	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	死亡	死亡原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防 研修実施回数【回/年】				職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施回数【回/年】	遊具の安全点検 実施回数【回/年】		玩具の安全点検 実施回数【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策																					
10008	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設教室内・園庭・校庭等	7.異年齢構成	40	0	0	0	12	15	13			4	4	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上中切歯歯脱臼(2本)	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.実施回数(2)回/年	1.基準以上配置						1.定期的実施	実施回数(1~2)回/年	1.定期的実施	実施回数(1~2)回/年	1.定期的実施	実施回数(3)回/年	1.定期的実施	実施回数(1~2)回/年	1.集団活動中・見守り	夕方子ども達と遊ぶ時間帯に合った遊びを考えた。友だちと誘い合って相撲遊びをした。	3.対象児から離れたところで見守っていた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった。	他の園児の見守った遊び、遊具についていた。	事故の起きた相撲遊びを事前に相撲遊びのルールを教示し、遊具の安全性を確認した。園庭に水をまき、滑りやすさを確認した。	この遊具は、クラスで相撲遊びが流行っており園庭での自由遊びの際によく行っていた。その際は、保育士がそばに付き、危険な遊具に近づかないよう声をかけていた。今後は、園庭に水をまき、滑りやすさを確認し、遊具の安全性を確認する。	
10009	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1 7.午後	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	18.6歳	2.女児	8.その他	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫 ●●●再骨折 ●●●再骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.実施回数(5)回/年	1.基準以上配置						1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.集団活動中・見守り	けがが完治しない時に、動きを制限する。動きが制限されたら、遊びの側に移動する。骨折の傷が完治しない状況だが、いつも通り園庭で走りまわっていた。	3.対象児から離れたところで見守っていた。	特に制限された見守りを行っていた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった。	全体を見守りながら、必要に応じて声をかける。打合せ対応中の保育士が、子どもを見守れなかった。	全体を見守りながら、必要に応じて声をかける。打合せ対応中の保育士が、子どもを見守れなかった。				
10010	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4 2.午前中	3.施設教室内(園外・公園等)	5.4歳児クラス	19									2	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期的実施	1.実施回数(1)回/年	1.基準以上配置						1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.集団活動中・見守り	友だちと一緒に遊ぶときに、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。	2.対象児に近づいて見守っていた。	士手の上で遊ぶことを見守っていた。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった。	クラス全体で遊ぶときに、子ども同士で遊ぶときは、同じ高さの上で遊ぶように声をかける。	子どもたちの体、身が大きい状態があるので、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。				
10011	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	12 7.午後	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	91	9	12	18	20	32				17	14	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期的実施	1.実施回数(1)回/年	2.基準以上配置						1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	3.個人活動中・見守り	引き続き園庭で遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。	2.対象児に近づいて見守っていた。	保育士は対象児の動きを見ていなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった。	遊ぶ前に、危険箇所(園庭の地面の様子など)を確認し、安全に遊ぶための注意事項を子どもに教示し、活動を開始する。				
10012	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設教室内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18									2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左側鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1.実施回数(12)回/年	1.基準以上配置						1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	3.個人活動中・見守り	遊具で遊んでいるときに、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。	4.対象児の動きを見ていなかった。	2.担当・対象児の動きを見ていなかった。	対象児は園庭で遊ぶときに、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。友だちと一緒に遊ぶときは、滑りやすさや高さについて注意を促す。	園児の動きに高さを気にしている園児がいた。遊具のそばに職員配置を促した。					

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢		性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰					事故発生要因分析						環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日									
						人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故予防研修 実施頻度 【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策				ハード面		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策																					
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上									学童	その他	死亡	重傷	負傷	受傷部位			診断名	事故誘因	施設的安全点検 実施頻度 【回/年】										遊具的安全点検 実施頻度 【回/年】	玩具的安全点検 実施頻度 【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策					
10036	令和6年3月21日	認可	認可保育所	4月 午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3								2	2	8.7か月	2.女児	4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5回/年)	1.基準以上配置	職員は下や周りを確認せず座っていた。乗った後、手の確認をせずに座ってしまった。本児の布団の配置場所が職員の見えなかった。	座る前に指差し確認する。必ず職員を職員全体に周知する。職員が通るが多い場所のあ、部屋の中心に配置する。	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的 に実施	実施頻度(250回/年)	1.定期的 に実施	実施頻度(250回/年)	室内の配置(布団、テーブル)の位置が適切ではなかった。布団の中心に布団を配置する。	コロナ感染に配慮してしまいがちであった。本児には気が張っていた。	5.睡眠中(午睡)	布団の敷く位置をドア付近の中心にする。	1.いつもどおりの様子であった	仰向けになり寝ていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の寝かしつけや職員間の会話が行ってしまいがちであった。本児には気が張っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の部屋で作業をしていた	職員の見えなかった	正座で座れば先にいたのでも本児の手に乗ることはなかった。	
10037	令和6年3月21日	認可	認可保育所	2月 午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	6	11						3	3	15.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂傷(擦過傷)、前歯部歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置	普段から落ち着かない場面で実施し、不具合が見つかれば改善する	1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(週1回)回/年	これから引き続きます実施し、不具合が見つかれば改善する	1.集団 中・見守りあり	ラバーリングも適度に設定してあり、環境的に改善する事はなかった	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	発散できず活動したため、高揚して活動的であった(理由を記載)	3.対象児から離れたところで見守っていた	2名は月齢が小さい(1歳児)必要年齢に達していないため、本児の近くには近づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児より高さが低いスクールの高い児童の傍らにいたため	日々の子ども達の様子を把握するとともに、状況によって適切な対応を図るよう努める				
10038	令和6年3月21日	認可	認可保育所	2月 午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37	0	0	4	10	6	17		3	3	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(1~2回/年)	2.基準配置	マニュアルに合った研修を定期的に実施し、職員も基準を満たしているため、新たな改善策は講じない。	1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	三輪車が、転倒の衝撃でグリップに緩みが生じ、緩んだ状態のグリップを持ってしまったことが考えられる。	グリップ三輪車は廃棄。ほかの三輪車も、事故防止のグリップを固定した。廃棄分の三輪車は、新規購入した。	1.集団 中・見守りあり	児童数、保育士数、スペースともに確保されたが、スピードを抑制できなかった。	三輪車で遊ぶ際のルールを徹底し、職員に周知年齢に応じて、スピードを出さないよう指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	特に日ごちと変わった様子はない	3.対象児から離れたところで見守っていた	南西側の鉄棒付近三輪車を走行している様子が見られたが、転倒を防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離で全体を見ていた。担当児童を見ていた	児童の事故状況を担任がしっかりと見守り、すぐに駆けつけたため、人的面的に適切な対応がとれた。今回の事故発生状況における改善策の必要性はないと考える。		
10039	令和6年3月21日	認可	認可保育所	5月 午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								2	1	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓破裂	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1~2回/年)	1.基準以上配置	今回の事故は、子ども同士がぶつかり、その勢いでブランコの前のステンレス製の横にぶつかったもので、園児の衝突によるもの。衝突の際、園児の体幹に当たった。園児の体幹に当たったことで、脾臓に損傷が生じた。園児の体幹に当たったことで、脾臓に損傷が生じた。園児の体幹に当たったことで、脾臓に損傷が生じた。	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	事故の原因は、ブランコの前のステンレス製の横にぶつかったことで、園児の衝突によるもの。衝突の際、園児の体幹に当たった。園児の体幹に当たったことで、脾臓に損傷が生じた。園児の体幹に当たったことで、脾臓に損傷が生じた。	1.集団 中・見守りあり	特になし	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見守っていた	担当保育士は、園児全体を見ていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当クラスのもう一人の担当児は、被服交換をしながら園児の中心にみている。同年齢の子供は、まだ園庭に降りておらず、そのクラスの担当はそちらの担当であった。	特になし	特になし				
10040	令和6年3月21日	認可	認可保育所	5月 午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	1	2	0	4	2	0	2	2	14.2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折 右尺骨骨折 右尺骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	今回の事例は、事故当日の午後職員会議で報告した。今後の改善点をみんなで話し合った。また、毎月の職員会議(ヒアリング)時に、もう一度確認し合った。	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的 に実施	実施頻度(12回/年)	遊戯室で遊ぶ時は、事故当日の午後職員会議で報告した。今後の改善点をみんなで話し合った。また、毎月の職員会議(ヒアリング)時に、もう一度確認し合った。	異年齢クラスであるので、遊びによって、2歳児と4歳児を分けた保育を行ってみたい。4.5歳児の見守りが、園児で見守ることができない遊具等には、2歳児は参加させない遊具の配置を行う。	1.集団 中・見守りあり	保育士1名は、他本館の子供との対応によって、2歳児と4歳児を分けた保育を行ってみたい。4.5歳児の見守りが、園児で見守ることができない遊具等には、2歳児は参加させない遊具の配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	4.5歳児の遊具を見ながら、遊んでいた	3.対象児から離れたところで見守っていた	保育士1名は、他本館の子供との対応によって、2歳児と4歳児を分けた保育を行ってみたい。4.5歳児の見守りが、園児で見守ることができない遊具等には、2歳児は参加させない遊具の配置を行う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所長は事務室にて業務を行い、フリー保育士は所長室にて業務を行っている。	異年齢全員の保育は、未満児の方が必ずよう配慮する。			

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの 年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況	事故の経過 死亡 原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	事故発生の要因分析										環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員の動き 何をしていたか	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	掲載 更新 年月日															
						人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上					その他	教育・保育等従事 うち保育教 諭・幼稚園 教諭・保育 士・放課後 児童支援員	17.5歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負 傷	2.骨折							4.上肢 (腕・手・ 手指)	骨折	1.遊具 等からの 転落・落 下	ハード面		3.未実施	実施頻度(回/年)	2.不定期 に実施	実施頻度(回/年)	2.不定期 に実施										実施頻度(回/年)	2.不定期 に実施	実施頻度(回/年)	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	公園先の 遊具の使 い方や危 険箇所 について職 員間で共 有し、通 達認識を 行うよう にする。	3.個人 活動 中・見 守り	特になし	特になし	普通から 通っている 公園ではあ ったが、遠 足時のため 、行事前 の事前の 職員同士の 打ち合わせ 等を徹底し ていく。	3.いつ もより活 動的であ った(理由 を記載)	2.対象 児の動き を見てい た	2.担当 者・対 象児の 動きを見 てい なかつ た	他児とあ そび、全 体を見守 っていた。	職員の見 守り位置 を考慮す る。
							1.定期的 に実施	2.基 準配 置	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施																	12	1.定期的 に実施																													
10056	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	3.施設敷地外(園外・公園等)	7.異年齢構成	41									4	4	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(3)回/年	2.基 準配 置	特になし	マニピュ ールの読 み合わせ 等、再度 職員で共 有してい く。	3.未実施	実施頻度(回/年)	2.不定期 に実施	実施頻度(回/年)	2.不定期 に実施	実施頻度(回/年)	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	公園先の 遊具の使 い方や危 険箇所 について職 員間で共 有し、通 達認識を 行うよう にする。	3.個人 活動 中・見 守り	特になし	特になし	普通から 通っている 公園ではあ ったが、遠 足時のため 、行事前 の事前の 職員同士の 打ち合わせ 等を徹底し ていく。	3.いつ もより活 動的であ った(理由 を記載)	2.対象 児の動き を見てい た	2.担当 者・対 象児の 動きを見 てい なかつ た	他児とあ そび、全 体を見守 っていた。	職員の見 守り位置 を考慮す る。								
10057	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端性離断	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	2.基 準配 置	特になし	保育教諭 の見守り を強化す る。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	特になし	特になし	1.集団 活動中・ 見守り	友だちの 足に絡ま り、転倒 。立ち上 る際に足 を蹴られ てしまっ た。	1.いつ もどおり の様子 であつた	転がった ボールに なり、友 だちに気 づいてい なかつた。	3.対象 児から離 れ、友だ ちと遊ん だりして いたため 、対応で きなかつ た。	ボールを取 りに行き 、ボール だけであ り、周り を見守る ことができ てい なかつた。													
10058	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4.7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8									3	3	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.基 準配 置	職員の見 守り位置 を強化す る。	1.定期的 に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(300)回/年	実施頻度(300)回/年	実施頻度(300)回/年	その他要 因・分 析、特記 事項	改善策	子どもの 転倒等に 対応でき るよう に、傍に いる職員 を配置す る。	1.集団 活動中・ 見守り	特になし	特になし	着替えが 済んでク ラクション しながら 遊んでい る様子 を確認す る。年齢 相応の遊 具を準備 して対応 する。(保 育士B)	2.対象 児の動き を見てい た	1.担当 者・対 象児の 動きを見 てい なかつ た	本児の歩 行が不安 定だった ため、本 児の見守 り位置を 調整して いく。											
10059	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30									4	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲刺刺傷	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(6)回/年	2.基 準配 置	ブロック 車では軽 いが、大 きく組み 合わせ たことよ って重 くなって しまった。 子どもの そばに 安全を見 守るよう に、ブロ ックを組 み合わせた 際には大 きく注意 して見守 っていく。	1.定期的 に実施	実施頻度(1.0)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(1.0)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(1.0)回/年	特になし	1.集団 活動中・ 見守り	特になし	引き続 き、活 動の見守 りに注 意する	1.いつ もどおり の様子 であつた	机の上で ブロック を組んで 遊んでい た	4.対象 児の動き を見てい なかつ た	本児を含 め全体の 動きを見 守ってい た。	2.担当 者・対 象児の 動きを見 てい なかつ た	至近距離 で遊んで いたが、 遊びの様 子によって 見守って いく											
10060	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	28									2	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(1)回/年	2.基 準配 置	特になし	危険管理 マニピュ ール見直 し	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(1)回/年	使用 前	特になし	特になし	1.集団 活動中・ 見守り	特になし	特になし	安全点検 を行い、 サーキ ットの 位置を 確認す る。至 近距離 での遊 びは注 意する。	2.対象 児の動き を見てい た	1.担当 者・対 象児の 動きを見 てい なかつ た	あそびを 中断し、 至近距 離にいた る本児 の様子 を確認 する。	職員間で とらえ 方を変 え、子 どもに 特異性 を見守 りを行 う。									
10061	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	9									1	1	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕前腕部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	実施頻度(1)回/年	2.基 準配 置	様々な 状況に 対応す るよう に、適 切に注 意する よう に、各 々の場 合に応 じて考 慮す る。	1.定期的 に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(1)回/年	ほぼ毎日	園庭が 広い。園 庭中 央付近 に立ち 止ま る様子 を確認 する。 (対象 児の動 きを見 守って いた)	3.対象 児から 離れた ところ で対象 児を見 てい た	2.担当 者・対 象児の 動きを見 てい なかつ た	4歳児の 見守り 位置を 調整す る。	衝動性 の強い 男児に 対して 、前方 を注意 して見 守って いく。															

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの年齢			事故状況発生時状況			事故の転帰			事故発生の要因分析											掲載更新年月日									
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士 児童支援員	年齢	性別	特記事項	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予 防研修 実施頻度 【回/年】	職員 配置	その他要 因・分 析・特 記事項	改善策	ハード面			改善策	環境面 教育・保育・支援の状況	その他要 因・分 析・特 記事項	改善策	人的面													
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上															学童 その他	施設 安全点検 【回/年】	遊具の安全点検 【回/年】					玩具の安全点検 【回/年】	その他要 因・分 析・特 記事項	対象児の動き 理由	担当職員の動き 何をしていたか		他の職員の動き 何をしていたか	その他要 因・分 析・特 記事項	改善策						
10066	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃) 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	1	2	3	4	5	25	28	5	5	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	その都度実施	2.基準配置	特になし	保育士一人ひとりがいっぱい危険な時も危険なことは起こるかもという危機意識が持てるよう事故後の話し合いの中で確認した。	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期 に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	1.集団 活動中・見守りあり	特になし	保育士が時間差で出勤し、担任がいなくても考えられる。友達の投げたボールがそれで行こうとした。対象児の動きを見えていなかった。登園してきて不安定な子に当たった。担当者が対象児を見ていなかった。他の固定などについて他児を見ていた。	特になし	登園時や始業前の始末や備品不安定な子に保育士が対応するため遊びを休める時は、どんな遊びでも定例の保育士に声をかけてから遊ばせる。また、自分が見ている遊び以外の遊びの様子や子ども、保育士の動きにも気づき、必要に応じて声をかけようとしている。			
10068	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃) 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16						14	2	3	16.4歳	1.男児	該当なし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	1	2.基準配置	三人体制をとっていたが、急遽二人体制になった時の対応が不十分であった。年長児が二人が入室する際、保育士の職員が対応する際、体罰の状況把握や連絡が課題。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1	1.集団 活動中・見守りあり	3.個人 活動中・見守りあり	一旦その場を離れて安撫せず、対象児のある遊び場を見守り、常に目を配っておく必要があることを確認し合った。	毎月1回の定期点検を行って行く。	異年齢保育の中で、年上児の姿に憧れられた。また、進級間近の時期で気持ちが大きくなり、行為が大胆になっていたのではないかと思われる。	1.いっぽりのおもちゃがあった	4.対象児の動きを見えていなかった	年長児二名が入室する際、その場に居残った。担当者が対象児の動きを見守り、声かけを必要としない。入室を促す必要があった。	二人体制になった時に、その場に子どもがいても、見守りや声かけを必要とする。	話し合いの場を持ち、3歳以上児保育者がそれぞれ分業して、園庭を担当する責任を明確にする。入室を促す必要があった。	
10069	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	26								6	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第4指末節骨骨折	5.他児から加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	今回の事故概要を全職員で共有し、危険な行為を見逃さないようにした。	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.定期的 に実施	毎日	1.集団 活動中・見守りあり	手押し車を乗せるものではないことを周知する。	1.いっぽりのおもちゃがあった	友達と遊ぶことを楽しんでいた。	2.対象児の動きを見えていなかった	手押し車を加減し、ジャングルジムの柵にあたるのを防がなかった。	担当者が対象児の動きを見守り、声かけを必要としない。	職員を危険な場所から遠ざけ、園庭の注視をしていた。	二人で楽しむのではなく、スピードも出さず、安全な遊びをする。	子どもの動きを想定しながら、本然に事故を防げるようにする。	
10070	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃) 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78						27	27	24	8	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.なし	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ガイドラインを参考に、園庭独自の事故防止マニュアルがないため作成し園内研修を行う。	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.集団 活動中・見守りあり	3.個人 活動中・見守りあり	高さのある遊具の下にクッション性のものを準備するなど検討する。	1.いっぽりのおもちゃがあった	落下など危険予察のできる遊具をできるだけ保育士がそばにつく。	3.対象児から離れたところで見守っていた	登り梯で遊ぶことは把握しているが、年長児といふことにより離れたところから手を離した。泣いたときにすぐに対応した。	他児と遊ぶ遊具を遊ばせていた。	子どもの動きを把握し、保育士の速やかな対応を促す。	
10071	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃) 2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27						10	3	14	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下肢脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルを見直し、全職員に周知していく。	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.集団 活動中・見守りあり	3.個人 活動中・見守りあり	定期的な点検や整備を実施しているため、改善策を要しない。	1.いっぽりのおもちゃがあった	定期的な点検や整備を実施しているため、改善策を要しない。	3.いっぽりのおもちゃがあった(理由を記載)	登りやすくなるため、得意な登り梯に何度か挑戦し遊んでいた。	好きな遊びをしている中、広範囲を担当保育士が見ながら対応していた。登り梯から手を離したときに、泣いたときにすぐに対応した。	誰か何をして遊んでいるか全体で見守っていたが、本園はいつも遊び方について保育士も確認している。	保育士を固定遊具や遊びの中に配置し、常に危機感を持ち、危険が芽見られるときには即時に対応できるようにする。

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所	発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの年齢		性別	特記事項	事故状況				事故発生原因分析											掲載更新年月日										
						発生時人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士 児童支援員	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ハード面				環境面			人的面																					
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上			死亡	負傷	受重		診断			ハード面の有無	事故予防	設備	職員配置	その他要因・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施回数【回/年】	遊具の安全点検 実施回数【回/年】	玩具の安全点検 実施回数【回/年】	その他要因・特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援状況	その他要因・特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由		担当職員 の動き	他の職員 の動き	その他 要因・特記事項	改善策						
10144	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11						2	2	15.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的に実施	実施回数(2)回/年	2.基準配置	事故の原因を分析し、再発防止に向けて職員間での情報共有、注意喚起を徹底する。	1.定期的に実施	実施回数(毎日)	1.定期的に実施	実施回数(毎日)	1.定期的に実施	実施回数(毎日)		ある程度重量があるため、日常的にベネチ子として使用している。中には乳パックのため、劣化等には十分注意して使用する。	3.個人活動中・見守り	昼食後、午睡前の時間帯は保育士が巡回している。運動遊びが偏っているように思われる。その際は長椅子などの環境設定を行う。	1.いつもどおりの様子であった	複数名をみていた。また、本児の遊び方も日常であり、ジャンプするなどがあつておぼろげに覚えていた。本児は普段から好む遊びで、この時間帯は他の児童と一緒に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助としてクラスに入っていた保育士は、食の後の片づけを行った。担任の保育士は、他の児童の補助をしていた。	各場面での遊びや、危険に対する判断、共有のルール、子どもへの働きかけ、子どもの安全確認、他の児童の補助の仕方をしている。	担任1名は子どもが遊んでいる様子を見守り、他の職員は補助をしながら見守っていた。		
10145	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	1					1	1	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕部打撲傷 右肘関節部打撲傷 右腕骨内顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	2.基準配置	今回の事故の事案を通して、再発防止策を職員で意識統一することが重要。	1.定期的に実施	実施回数(3)回/年	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年		通常の子どもたちが使用する玩具だったが、持っている状態で危険が生じているものだった。	1.集団活動中・見守りあり	広い園庭で活動するときは、保育士の立ち位置に気を付ける。	1.いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見守っていた	職員は1人体制で、死角になっていた子どもを把握できていなかった。	右腕の痛みを訴えた直後は、本人が聞き取れない状態で状況把握が十分ではなかった。	職員が全体的に子どもを見守る位置で、死角に注意しなかった。					
10146	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃~夕食提供前)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17					1	1	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	2.基準配置	過去に同様のケガは起きていないが、スロープをロープつたいに降りたことで危険が降りかかることを認識して伝えていく。	1.定期的に実施	実施回数(2)回/年	1.定期的に実施	実施回数(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	特になし	子どもの動きに注意していても、総合遊具の入り口は複数あるため、ロープをロープつたいに降りたことで危険が生じているものだった。	1.集団活動中・見守りあり	事故前かから遊具を使っておけようとしていた。遊びに夢中になると危険を感じていなかった。	1.いつもどおりの様子であった	特に普段と変わったことはなかった。	2.対象児に近づく様子を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、外遊具を注意していた保育士は、対象児を見守ることができていなかった。	子どもにとって遊んでいる遊具が、危険を予測できなかった要因と思われる。	子どもの遊び方を把握し、危険な遊びを指摘して注意していた。			
10147	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	1.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	81	3	11	13	16	17	21	0	18	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	1.基準以上配置	怪我が起るたびに職員間で状態を確認し、復元ができていない点が、反省点は何かを振り返るようにする。	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	1.定期的に実施	実施回数(2)回/年	1.定期的に実施	実施回数(5)回/週	園庭の小さく、園庭の敷面が直している。	園庭のくぼみで危険だと感じられる箇所を直していく。	3.個人活動中・見守り	特になし。	引き継ぎを実施する。	1.いつもどおりの様子であった	おやつ時の時間にならぬままに、スキップしながら保育室に向かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に保育室に入り、おやつの準備をしていた。	保育士が全体的に見守ることができていなかった。	怪我が起るたびに職員間で状態を確認し、反省点は何かを振り返るようにする。
10148	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13					3	3	15.3歳	2.女児	なし	5.食事(おやつ含む)	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	1.基準以上配置	職員が環境に慣れないうちに、職員同士で連携が十分でなかったと思われる。	1.定期的に実施	実施回数(2)回/年	1.定期的に実施	実施回数(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施回数(1)回/年	特になし	職員が環境に慣れないうちに、職員同士で連携が十分でなかったと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	進級し新しい環境になっていく中で、子どもが緊張感を感じてきている様子であった。	子どもを見守ることができていなかった。	1.いつもどおりの様子であった	特に普段と変わったことはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他に2名職員がいる中で、それぞれ対象児に対して対応ができていなかった。	水道近くにタオル掛けなどの物が置かれていて、物が多い状態であった。	水道周りで物の配置を直し、危険なものを撤去した。	

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 年月日	発生場所	施設・事業体制													事故にあった子どもの										事故発生時の状況				事故発生の要因分析										掲載更新年月日													
						発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	事故発生状況	事故の転帰			診断名	事故 誘因	ソフト面		事故予防 研修実施 回数【回/年】	職員配置	その他要 因・分析 事項	改善策	ハード面			改善策	環境面		その他要 因・分析 事項	改善策	人的面		改善策																	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上						園児 その他	死亡	死因			負傷 負傷状況	受傷部位					ソフト マニュアルの有無	施設 安全点検	遊具の安全点検		玩具の安全点検	その他 要因・分 析・特記 事項			教育・ 保育・ 育成支 援の状 況	その他 要 因・分 析・特 記 事項		対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的 何を していたか	他の職員の動き 具体的 何を していたか		その他 要 因・分 析・特 記 事項	改善策											
10164	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃) 2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23	8	15							4	4	14	2	1	男児		7.登園・降園中(米所・補宅中)	1.負傷			2.骨折		2.顔面(口腔内含む)	A 外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2~3)回/年	2.基準配置			1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	毎日		門の前が緩やかな傾斜にしているため、走りだすと急激に滑りやすくなり、転倒した。登降時にも事故が起こることを職員間でも把握し、保護者へもお便りや掲示などを用い啓蒙している。	駐車場内を走りだすと、怪我につながる危険があることを施設周辺に掲示する。	3.個人活動中・見守り		小さい年齢の子は特に、保護者とならぬで歩いて登降してもらおう。	1.いつもの様子がなかった	4.対象児の動きを見なかった	職員の見守りが不足していた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	職員の見守りが不足していた	登降時にも事故があった	登降時には手をつないで登降所を安全に確保しよう。
10165	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9								1	1	15	3	2	女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷		2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置			1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(4)回/年		着席している児童と児童との間に近づいた。	集まりのとき、児童の間の椅子の間を通行する制限を十分確保する。	1.集団活動中・見守り	新年度クラスで約1週間以上、3歳児の子供の遊びの様子を見守りを徹底した。	引き続き児童の動きを見てきた。	1.いつもの様子であった	いつも通りであった	2.対象児の動きを見なかった	クラス全体の様子を見てきた。	1.担当者・対象児の動きを見てきた(至近距離にいた)	担任はクラス活動中の時間、フリーが未だに担任の補助に入っていた。	動きの大きい男児が走りだして行方不明になっていた。児童の動きを見て、安全に確保しよう。	引き続きの動きを見守り、子供が安全に遊ぶことができるように配慮する。
10166	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37	9	13	15					5	5	16	4	1	男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4~6)回/年	2.基準配置			1.定期的実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(4)回/年		年度初めや年中、子どもたちの様子に応じて遊びのルールの確認や見直しを行って行く。	引き続き、安全点検を行うとともに、施設設備等に不備があった場合は職員間で共有することにも、速やかに修理、改善などの対応を行う。	3.個人活動中・見守り	園庭が乾いているときは、適宜水を撒いておく。滑りにくくする。	1.いつもの様子であった	3.対象児の動きを見なかった	他の子ども達との様子を見てきた。	1.担当者・対象児の動きを見てきた(至近距離にいた)	子ども達それぞれが園庭の好きな場所を自由に遊び、そこで職員が付きながら安全に遊ぶよう確認、見守っていた。	園庭の中心を確保して、子ども達が遊びたい場所を提供できるように配慮することでも子ども達の安全を確保しよう。			
10167	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	37								2	2	17	5	1	男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置			1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		対象児はジャンプパーを振るものと思い、ジャンプした際に、ジャンプを予断できなかった。	最初のジャンプで、振るものが下に行き、声がかかっている。ジャンプをして、音が聞こえるようになっている。	業者による衝突吸収マットについて確認を行う。	雲梯には問題はないが、雲梯の下の衝撃吸収マットについて確認を行う。	年中2クラスの園児と一緒に園庭に出て、37名の園児を2名の保育教諭で見守っていた。	担当職員は危険度の高い雲梯の周りで見守りを行っていたが、多数の園児が同時に遊んでいる状況では見守りが難しくなっていた。	1.担当者・対象児の動きを見てきた(至近距離にいた)	他の職員は出入り口、鉄棒内の子供たちを見ておまわりを見守っていた。	子ども達も、遊びの楽しさや安全について意識を高め、遊びを楽しむ。	遊具の使い方が、遊びの楽しさや安全について再確認し、見守りを注ぎ、遊びを楽しむ。			
10168	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25	7	11	7					2	2	17	5	1	男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	右肘内障及び右肘骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(7)回/年	1.基準以上配置			1.定期的実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的実施	実施頻度(293)回/年		各遊具の使い方や見守りの仕方について、具体的にマニュアルを作成し、全職員に周知する。	バランスを崩して落下した場合、クッション(マット等)を整備する。	1.集団活動中・見守り	4歳児である対象児が6歳児と平均台で遊ぶようになったところ、平均台から落下し、床にぶつかってけがをした。床に敷いたマットが効果的でなかった。	対象児の後ろにいた3歳児の手を引いていたが、平均台の反対側から落下し、床にぶつかってけがをした。床に敷いたマットが効果的でなかった。	2.対象児の動きを見てきた	お遊戯室のクライングウール遊びなど、他児の遊びを見守っていた。	活動場所のスペースに注意し、子ども達の安全を確保し、遊びを楽しむ。					

No	初回掲載年月日	概要 認可認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 日 時間帯	発生場所	施設・事業体制											事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況		事故発生要因分析											掲載更新年月日																		
						発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	死亡 原因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予 防研修 実施頻度 【回/年】	職員 配置	その他要 因・分 析・特 記 事項	改善策	ハード面			改善策	環境面 教育・ 保育・ 育成の 状況	その他要 因・分 析・特 記 事項	改善策	人的面 対象児の 動き 理由	担当職員 の動き 具体的に 何を していたか	他の職員 の動き 具体的に 何を していたか		その他要 因・分 析・特 記 事項	改善策																
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上 5歳												その他	施設安全点検 実施頻度 【回/年】	遊具安全点検 実施頻度 【回/年】											玩具安全点検 実施頻度 【回/年】	その他要 因・分 析・特 記 事項														
10174	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭等)	7.異年齢構成	50	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腕骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年		1.集団活動中・見守り			1.いつでもおどりの様子があった	登園時から特におどった様子もなかった	3.対象児から離れた場所で対象児を見ていた	園庭全体の様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の様子を見ていた			全員で全体を見守るようにしたため、保育士が声を掛け合っている状況で、具体的な子どもたちを責任もって見守ることが、再度確認していく。
10175	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折・裂傷	5.他児から危害を受けたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.集団活動中・見守り			1.いつでもおどりの様子があった	トイレの中の子が入り込んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と声をかけて入った	担当職員と声をかけて入った	職員について再検討	サポートが必要なかたが、保育士の声掛けや見守り方を再確認し、これまでも保育士が確認が不足している箇所がないかを、その結果、声掛けや見守りが適切に行うようにした。					
10176	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1.遊具等から落下・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.個人活動中・見守り			1.いつでもおどりの様子があった	自分のベースで遊ぶ遊具を見ていた	2.対象児を見ていた	遊ぶ園児の人数を確認し、事前に見守りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャンプする場所を避けていたため、混雑解消のため、遊び方をためたとき	配置場所を他の職員と声をかけて、周囲を徹底して確認	多方面に目を配る場所を考慮し、予想される行動を起こすのを防ぐ				
10177	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	3.子ども同士によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準以上配置		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.集団活動中・見守り			1.いつでもおどりの様子があった	ブランコ前で、遊ぼうとした	4.対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の遊びの様子を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに職員がいたため、対象児の動きを止めることができなかった	担任や補助員が低機管理意	子どもの衝動性や暴発という特徴のある動きを事前に察し、常に全体を把握して対応や保育を行う。						
10178	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	4.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	13								3	3	13.1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足すね骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.集団活動中・見守り			1.いつでもおどりの様子があった	2.対象児を見ていた	おやつを並行して行っていたことで、対象児の状態を十分に把握できていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の手助けやおやつなどの準備などをしていなかった	通常保育から延長保育への移行時の準備と連携を、声を掛け合うなど、安全な環境を整えるようにした。						

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢		性別	事故状況 発生時状況	事故の転帰					事故発生の要因分析										掲載更新年月日														
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者					年齢			性別	死亡	負傷	重傷	診断名	事故誘因	ハード面		ソフト面		ハード面		ソフト面		ハード面		ソフト面		環境面	その他	改善策	人的面	改善策							
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	保育士	幼稚園教諭										保育士	放課後児童支援員	マニュアルの有無	事故予防研修実施回数【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施回数【回/年】	遊具の安全点検実施回数【回/年】		玩具の安全点検実施回数【回/年】	その他要因・分析・特記事項						改善策	対象児の動き理由	担当職員の見守り	他の職員の見守り	その他要因・分析・特記事項	改善策	
10189	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	6.7.午後	2.施設敷地内(室内・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2.実施回数(2)回/年	1.基準以上配置	遊びの内容を知らず、慌てて走り回っていた。遊びの内容を知らず、慌てて走り回っていた。遊びの内容を知らず、慌てて走り回っていた。	1.定期的実施	実施回数(1)回/年	1.定期的実施	実施回数(50)回/年	1.定期的実施	実施回数(50)回/年	園庭の草や、芝生が伸びすぎて、芝が引っこかかるなどの心配がなかった。園庭の整備、芝生の手入れをこまめに行う。	1.集団見守り	園庭の芝生が伸びすぎて、芝が引っこかかるなどの心配がなかった。園庭の整備、芝生の手入れをこまめに行う。	芝生は伸びすぎて、芝が引っこかかるなどの心配がなかった。園庭の整備、芝生の手入れをこまめに行う。	1.いつでもおりの様子であった	午後からの自由遊び中、園庭で「はじ」を遊んでいた。	2.対象児の見守り	対象児の動きを見ていた(至近距離)	1.担当者・対象児の見守り	他の子どもも遊んでいた。	戸外遊び中の立ち位置や進捗の把握ができていた。	どこの位置に立つか、子どもがどこまで進んでいるかを把握していた。
10190	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	2.2.午前中	2.施設敷地内(室内・校庭等)	2.1歳児クラス	18									4	4	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙骨折、打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1.実施回数(1)回/年	1.基準以上配置	保育士は本児の子どもの遊びの様子を把握し、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(48)回/年	1.定期的実施	実施回数(1)回/日	朝の環境整備だけでなく、年齢に合わせた遊びの準備をしておく。朝の環境整備だけでなく、年齢に合わせた遊びの準備をしておく。	1.集団見守り	素しきの表現方法がわからず、足元の不安定な状況で遊んでいた。素しきの表現方法がわからず、足元の不安定な状況で遊んでいた。	遊びの様子を把握し、子どもが遊んでいる様子を見ていく。	1.いつでもおりの様子であった	自分の遊び中に夢中になって遊んでいた。	2.対象児の見守り	対象児の動きを見ていた(至近距離)	1.担当者・対象児の見守り	園庭の遊具につきまわっていた。	本児の動きを予測し、危険な状況を回避していた。	子どもの遊びの様子を把握し、子どもが遊んでいる様子を見ていく。
10191	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	9.2.午前中	2.施設敷地内(室内・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨と尺骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.実施回数(1)回/年	1.基準以上配置	低いやつ馬の遊びで、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	2.不定期実施	実施回数(1)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	2.不定期実施	実施回数(1)回/日	園庭を広く、周りを囲って竹馬に乗せていた。	園庭を広く、周りを囲って竹馬に乗せていた。	竹馬をするときは、園庭も広く、周りを囲って竹馬に乗せていた。	1.いつでもおりの様子であった	昼食を終え、園庭で竹馬を遊んでいた。	1.対象児の見守り	対象児の動きを見ていた(至近距離)	2.担当者・対象児の見守り	対象児の動きを見ていた(至近距離)	昼食後の活動の様子を把握し、子どもが遊んでいる様子を見ていく。	職員同士で活動の時間を把握し、危険な状況を回避していた。	
10192	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	5.2.午前中	2.施設敷地内(室内・校庭等)	7.異年齢構成	70	15	20	19	16					9	9	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘外側骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.基準以上配置	落下しないうちから、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.定期的実施	実施回数(毎日)	1.定期的実施	実施回数(毎日)	1.定期的実施	実施回数(週1)回	特になし	落下しないうちから、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.集団見守り	落下しないうちから、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	普段の遊びの中で、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.いつでもおりの様子であった	他園児の対応を待たずに、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.担当者・対象児の見守り	対象児の動きを見ていた(至近距離)	普通に着地したため、園児が痛みを訴えなかった。	特になし	落下しないうちから、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。
10193	令和6年3月21日	1.認可	6.認可保育所	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施回数(約20)回/年	2.基準以上配置	降園前の移動時間中に、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	1.定期的実施	実施回数(12)回/年	2.不定期実施	実施回数(1)回/年	実施回数(12)回/年	トイレには、シューズを履き、各自のロッカーに入れてから行く。トイレには、シューズを履き、各自のロッカーに入れてから行く。	1.3.個人見守り	室内の移動中に、保育士が声をかけたり、安全について見直し、再発防止に努める。	対象児の動きを見ていた(至近距離)	対象児の動きを見ていた(至近距離)	トイレの中に入り、本児がシューズを履き、ロッカーに入っていた。トイレの中に入り、本児がシューズを履き、ロッカーに入っていた。	園児がシューズを履き、ロッカーに入っていた。	園児の行動を把握し、危険な状況を回避していた。			

Table with columns: No, 初回掲載年月日, 概要, 施設・事業所種別, 事故発生時期, 発生場所, 発生時の施設・事業体制, 事故にあった子どもの年齢, 性別, 特記事項, 事故状況発生時状況, 事故の転帰, 負傷, 診断名, 事故原因, 事故発生に至った要因分析, ハード面, 環境面, 人的面, 改善策. The table contains 5 rows of data for different incidents.

掲載更新年月日

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 人数 異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳以上 学童 児童 保育所 その他	事故にあった子どもの年齢・性別 年齢 性別 特記事項			事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 負傷 負傷状況 受傷部位 診断名	事故原因	事故発生の要因分析													掲載更新年月日																							
							ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置 基準以上配置				その他要因 分析、特記事項	ハード面		環境面			人的面		改善策	その他要因 分析、特記事項	改善策																										
														施設安全点検実施頻度【回/年】	遊具安全点検実施頻度【回/年】	玩具安全点検実施頻度【回/年】	その他要因 分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・支援の状況	その他要因 分析、特記事項				改善策																									
10200	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設教室内(室内)	6.5歳以上児クラス 23			17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施 実施頻度()回/年	1.基準以上配置	事故発生時、遊戯室の長辺を移動する運動の途中、「往衝突などへの注意は使っていたものの、運動が「競争」になつてしまひ、ルール徹底に形骸に変わっていた。	遊戯室の長辺を移動する運動の際には、「往衝突」の形を「一片ずつ」ではなく、「一歩」を運動とし、帰路を「歩かせる」形に改善する。	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	無	無	現状維持	1.集団活動中・見守りあり	無	現状維持	1.いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで見守りしていた	活動の全体把握から指示を出していた	2.担当者・対象児の見守りを見守りしていた	遊戯室内には、他の児童・担任はいなかった	保育士は「この遊び方に、上り下りしてかきあげるとかという見守り・予測を持っていていなかった	児童の行動特性を個別に理解し、最悪の事態を想定して遊び環境のルールを構成する												
10201	令和6年3月21日	1.認可 3.保育所認可認定子ども園	5	1.朝(始業~午前10時頃)	2.施設敷地内(園庭・校庭等)	7.異年齢構成 52	0	0	0	17	15	20				16	13	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨端発育線損傷(剥離骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施 実施頻度()回/年	2.基準配置	子どもたちが、落ち葉が落ちてきたり、ふざけた遊びなどで、場面の想定外の危険な状況の発生を招き、安全管理能力の向上を図る必要がある。	安全会議の時間の中で、ヒヤリハットなどを現場に即して、研修を行って、危機管理能力の向上を図る。	1.定期的 実施頻度(24)回/年	1.定期的 実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施 実施頻度(300)回/年	無	無	今回の怪我に関しては、特に考える。	1.集団活動中・見守りあり	安全会議で危険な場所を把握し、職員同士の巡回確認しながら行う。	毎日の環境整備確認を職員同士で行う。	1.いつもどおりの様子であった	年長になり、活発な行動が増えたり、遊びの面白さが増えたりした点に気づき、改めて確認していく必要がある。	3.対象児から離れたところで見守りしていた	対象児が友達と走り回り、おにごっこをしているのを見守りしていた。転倒したことを確認し、すぐに駆け寄り、怪我の状況を確認した。	2.担当者・対象児の見守りを見守りしていた	それぞれの遊具の状態を確認していた。	表裏の配置だけでは、全体を見渡せる場所がないので、職員同士で連携を取りながら、見えない場所にも子どもたちの動きを把握できるように体制を取っていくこと。(配置を再考する)			
10202	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス 12										2	2	17.5歳	2.女児	過去にも骨折の既往あり。転ぶことが多い。	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施 実施頻度()回/年	2.基準配置	明らかな外傷はなかったが、痛みを訴える足指については、クラス内職員だけでなく、管理者や看護師に報告し、複数の職員で状態観察を再度確認した。	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	1.定期的 実施頻度(12)回/年	無	開始前は地面の状態を確認をおこなう。	1.集団活動中・見守りあり	ドッジボールの広さを確認したが、狭い等は無かった。	無	1.いつもどおりの様子であった	転倒の場面も把握しており、転倒後は安静にして経過観察した。その後、万が一の状態に備えて確認していた。	2.対象児から離れたところで見守りしていた	1.担当者・対象児の見守りを見守りしていた	ドッジボールはコートとの反対側で見守る。	小児の骨折は少ないが、骨折し、手術が必要な場合もある。経過観察や看護士にも連絡し、状態を確認することを要する。	上記を踏まえて、痛みを訴える場合は、医師と連携し経過観察することや、看護士にも連絡し、状態を確認することを要する。			
10203	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成 25										4	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右小指基節骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施 実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園児25名、保育士4名で保育。お昼中の保育で、通常通りだったのが、保育士が保育を行っていたため、配置が余剰が出た。保育士は足指を踏まれた可能性がある。	子どもの人数に合わせた空間利用(遊びスペース)を増やす。	1.定期的 実施頻度(220)回/年	1.定期的 実施頻度(220)回/年	1.定期的 実施頻度(220)回/年	1.定期的 実施頻度(220)回/年	なし	なし	通りすがりに足を踏まれたことで、通路の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。	1.集団活動中・見守りあり	通りすがりの足踏みに伴って、通行の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。	通路の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。	1.いつもどおりの様子であった	大きな変動はないが、日常的にも関わらず、通行の際に気を付けている。足踏みに伴って通行する際は、通行の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。	1.5メートルの間隔で遊ばせているが、通行の際には、通行の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。	4.対象児の動きを見守りしていた	2.担当者・対象児の見守りを見守りしていた	他スペースにおいて対象児の動きは少ない	ボランティアの参加もあり、大人の目としてボランティア(参加する側)を見守る。ボランティアの参加により、通行の際には、通行の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。	こどもの心理、健康状態に合わせた環境作りも見直し、ボランティア(参加する側)を見守る。ボランティアの参加により、通行の際には、通行の幅を確保し、通行する際の注意喚起を呼びかけた。

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制	施設・事業体制											事故にあった子どもの年齢				事故発生時の状況														事故発生の要因分析	環境面 教育・保育・支援体制	人的面 対象児の動き 理由	改善策	担当職員 の動き 具体的な 何を していたか	他の職員 の動き 具体的な 何を していたか	その他要 因・分 析・特 記事 項	改善策	掲載更新年月日
							人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事 うち保育教 諭・幼稚園 教諭・保育 士・放課後 児童支援員	事故発生 年齢	性別	特記事項	事故発生 状況	死亡 原因	負傷 状況	受傷部位	診断名	事故 原因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予 防研修 実施回数 【回/ 年】	職員配 置	その他要 因・分 析・特 記事 項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施回数 【回/ 年】	遊具の安全点検 実施回数 【回/ 年】	玩具の安全点検 実施回数 【回/ 年】	その他要 因・分 析・特 記事 項	改善策	その他要 因・分 析・特 記事 項									
10204	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	17.	午後	2.施設敷 敷地内(室 外・園庭・ 校庭等)	7.異年齢 構成	36	11	17	8	2	2	18.6歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	骨折	2.自らの 転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 配置	特に無し	園庭から つながらず なぐりつな いで走りま わっている 子どもに 保護者が注 意喚起し、 遊具の確 認事項とす る。	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	園庭等に 特に問題 となる箇 所は認め られない	特になし	ケガをした 子どもは サッカー ボールを 持って園 庭入り口 付近で走 りまわっ ている。保 育者が注 意喚起し たため、 転んだ箇 所を見つ めた。ケ ガの箇所 を確認し た。	1.集団 中・見守 りあり	子どもた ちは入り 口の付近 で走りま わっている 子どもに 注意喚起 し、走り 回らない ようにつ まづいて いく。	いつも通 り、園庭 を走り回 った。遊 具もいつ も変りな い行動を していた。	4.対象 児の動き を見つめ ていた	アスレッ チック遊 具で遊ん でいる子 どもが、 遊具を見 守り中で いるとし て、広い 園庭で遊 んでいる 子どもに 注意され ていた。	アスレッ チック遊 具で遊ん でいる子 どもが、 遊具を見 守り中で いるとし て、広い 園庭で遊 んでいる 子どもに 注意され ていた。	特に無し	特に無し	
10205	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	9.	午前10時頃	2.施設敷 敷地内(室 外・園庭・ 校庭等)	2.1歳児ク ラス	17				4	4	13.1歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左尺骨骨 幹部骨折 ・橈骨骨 幹部骨折	1.遊具等 からの転 落・落下	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 配置	滑り台の 横にも職 員を配置 する。滑 り台下に マットを 敷く。	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	2.不定期 に実施	実施回数 (12)回/ 年	滑り台の 下にマット が無く、 安全性に 気がな かった。	滑降部だ けでなく 、階段の 横にも保 育士を配 置する。	怪我をし た際は、 複数の職 員で確認 する。遊 具の下に マットを 敷く。	1.いつも どおり様 子であっ た	いつも通 り機嫌よ く遊んで いた。	2.対象 児の動き を見つめ ていた	担当保育 士は、滑 り台の滑 降部で、 滑り降り てくる周 りの環境 を確認し ていた。 その中で 、被りた り、被り た際に、 腕が痛 むようにな ったので、 手を伸ば して助け を求めた 。	2.担当 者・対象 児の動き を見つめ ていた	被災児が 落下した 際に、保 育士も、 腕が痛 むようにな ったので、 手を伸ば して助け を求めた 。	頭から落 ちたこと で、多く の職員で 確認が おこな われた。	滑り台の 横にも保 育士が つき、安 全に留意 する。			
10206	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	9.	午後	1.施設敷 敷地内(室 外・園庭・ 校庭等)	6.5歳以上 児クラス	30				3	3	18.6歳	1.男 児	2.室内活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	右小指骨 節骨折・ 右小指骨 節骨折 ・右小指 骨骨折	2.自らの 転倒・衝 突によるもの	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 配置	先週から 家で痛 みを訴え ていた事 を、家庭 から連絡 を受け、 遊びの 練習をし ていた。	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	2.不定期 に実施	実施回数 (12)回/ 年	家庭との 連携を密 にし、怪 我予防に つとめる。	1.集団 中・見守 りあり	家庭で指 の痛さを 訴えて、 家庭から 連絡があ ったこと で、遊び の練習を した。	家庭との 連絡を密 にし、再 発防止に つとめる。 また、運 動前には しっかりと ストレッチ や準備運動 を行うこと を徹底し ていく。そ の場で、 指の痛み を訴えるこ とがあった ため、指 の痛さを訴 えることで 、その痛 さを訴える ことで、指 の痛みが 軽減するこ とを確認し た。	1.いつも どおり様 子であっ た	いつも通 り元気な 様子であ った。	2.対象 児の動き を見つめ ていた	担当保育 士は、指 の痛みを 訴えたこ とを確認し 、指の痛 さを訴え ることで、 指の痛み が軽減す ることと 確認した。 その場で、 指の痛さを 訴えるこ とを確認し た。	1.担当 者・対象 児の動き を見つめ ていた	家庭との 連絡を密 にし、再 発防止に つとめる。 また、運 動前には しっかりと ストレッチ や準備運動 を行うこと を徹底し ていく。そ の場で、 指の痛み を訴えるこ とがあった ため、指 の痛さを訴 えることで 、指の痛み が軽減す ることと 確認した。	事前にも 指の痛み を訴える ことで、 指の痛み が軽減す ることと 確認した。 その場で、 指の痛さを 訴えるこ とを確認し た。			
10207	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	9.	午前中	2.施設敷 敷地内(室 外・園庭・ 校庭等)	6.5歳以上 児クラス	52				3	3	17.5歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左肘骨折	1.遊具等 からの転 落・落下	1.あり	2.不定期 に実施	2.基準 配置	ブランコ の乗り方 が、今後 も安全点 検を実施 する。	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	2.不定期 に実施	実施回数 (12)回/ 年	遊具の不 備はない が、今後 も安全点 検を実施 する。	1.集団 中・見守 りあり	各保育士 が、園庭 を遊ばせ ることに 対して、 遊具の不 備がない ようにつ まづいて いく。	3.対象 児の動き を見つめ ていた	事前にも 指の痛み を訴える ことで、 指の痛み が軽減す ることと 確認した。 その場で、 指の痛さを 訴えるこ とを確認し た。	1.担当 者・対象 児の動き を見つめ ていた	各保育士 が、園庭 を遊ばせ ることに 対して、 遊具の不 備がない ようにつ まづいて いく。	保育士間 で声をか け、安全 に遊びま わること を確認し た。				
10208	令和6年3月21日	1.認可 6.認可保育所	9.	夕方(16 時頃～夕 食提供前 頃)	2.施設敷 敷地内(室 外・園庭・ 校庭等)	7.異年齢 構成	30	14	16	2	2	17.5歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左腕骨 軟部骨折	1.遊具等 からの転 落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.基準 配置	事故防止 に関する 研修を月 1回程度 実施。朝 の朝礼で 外遊びの 重要性を 伝え、怪 我が起き やすいこ とを周知 したため。	1.定期的 に実施	実施回数 (2)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	1.定期的 に実施	実施回数 (12)回/ 年	遊具や玩 具の安全 点検を定 期的に 実施。遊 具自体に 特に問題 はな い。	1.集団 中・見守 りあり	午前中に 園庭の 行事があ り、日中 の園庭活 動が終了 後、延長 保育時間 に入る。その ため、延 長保育時 間の園庭 での遊 びを、事 前に注 意喚起し ていた。 対象児は 、園庭を 遊んでいる 中で、遊 具を見守 り中であ り、遊具 が落ちて いること を確認し た。	3.いつも どおり様 子であっ た	日中の園 庭遊びが 終わった ため、延 長保育時 間の園庭 での遊 びを、事 前に注 意喚起し ていた。 対象児は 、園庭を 遊んでいる 中で、遊 具を見守 り中であ り、遊具 が落ちて いること を確認し た。	3.対象 児の動き を見つめ ていた	高さのある 遊具(複 合遊具・ 8人用ハ ントウ ・鉄棒・ 三連鉄棒 等)を、保 育士と 同居する ように立 て、遊具 が落ちて いること を確認し た。	3.対象 児の動き を見つめ ていた	高さのある 遊具(複 合遊具・ 8人用ハ ントウ ・鉄棒・ 三連鉄棒 等)を、保 育士と 同居する ように立 て、遊具 が落ちて いること を確認し た。	活発にな っている 園庭に 対して、 保育士 の間で、 安全に遊 びまわ ることが できるよ うにつ まづいて いく。				

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業 所種別	事故発生時期 月	発生場所 時間帯	発生時の施設・事業体制	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事 者うち保育教 諭・幼稚園 教諭・保育士 ・放課後児童 支援員	事故にあった子どもの 年齢		性別	特記事項	事故状況		事故発生の要因分析										掲載 更新 年月日																			
							人数	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別			発生状況	死亡	状況	死因	負傷 状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予 防研修 実施頻度 【回/年】	職員 配置	その他要 因・分 析・特記 事項		改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度 【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度 【回/年】	その他要 因・分 析・特記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・育 成支援の 状況	その他要 因・分 析・特記 事項	改善策	人的面 対象児の 動き 理由	担当職員 の動き 具体的 何を していたか	他の職員 の動き 具体的 何を していたか	その他要 因・分 析・特記 事項	改善策					
10218	令和6年3月21日	認可	認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10									2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	5.あり	2.不定期に実施	実施頻度(都度)回/年	1.基準以上配置	保育者が取れておらず、双方の動きを把握せず子どもも目を離した。	職員同士連携をしてお互いの動きを把握して子どもを注視できる職員を配置して、できる限り子どもを離さない。	1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期 に実施	実施頻度(使用時)回/年		玩具の箱が固く、また角張っている等利用している保育者がいなかったが、聞き取りでは、足を箱に乗ったとき足が箱に引っかかり、目を見つけたことだった。	角張った場所にカバールを利用する際には、危険のないよう見守り、子どもも適切な使用方法を伝える。	1.集団 活動中・見守り	自由には動いている子がいた。		片付けに参加するよう声をかけるなどして動いている子どもがいないようにする。子どもにも危険周知を伝えるようにする。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	玩具の木箱に足を乗せようとした。片付け終わりに、好奇心から乗った。または他児が乗った足を踏むと足が上がったことかもしれない。	片付け終了後、全体へ出しが違っていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	片付けの指示を出したが、子どもも声掛けなどをその時点で受けなかった。	他児が当該の上にかかったこと。保育士も対応ができていなかった。	危険な行為は行わないように子どもたちに指導し、指導された子どもは必ず声掛けをするように徹底させる。また、危険な行為は必ず声掛けをしてから行動することを再度確認、追加し徹底させる。
10219	令和6年3月21日	認可	認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28		8	11	9				4	4	16.4歳	2.女児	普段は3, 4, 5歳の異年齢で過ごしているが、今回は2, 3, 4歳児で出かけていた。	1.屋外活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上下前歯の脱臼、下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	他園が来た際、園児が気が変わった様子に気づき、子どもの様子を見て見守るよう注意している。	本園が来た際、園児が気が変わった様子に気づき、子どもの様子を見て見守るよう注意している。	1.定期的 に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(使用時)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(使用時)回/年		遊具の対象年齢の記載に対して、守る意識が薄かった。(今回使用していない)	遊具の使用対象年齢を確認し、保育士間で共有して、どの遊具を使用するかを決定している。	1.集団 活動中・見守り	斜面で遊ぶことに対して、甘かった。		3.対象児から離れた場所で見守っていた	坂道が確認できる位置について、見守っていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	それぞれ担当する場所がある中で、本園も目途を追うことはなかった。	斜面で遊んでいるときの職員配置を、子どもより下の位置で見守り、子どももより下の位置で見守っていた。	斜面で遊んでいるときの職員配置を、子どもより下の位置で見守っていた。	斜面で遊んでいるときの職員配置を、子どもより下の位置で見守っていた。		
10220	令和6年3月21日	認可	認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	22			7	7	8			2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 に実施	12	2.基準配置	特になし。	特になし。	1.定期的 に実施	12	300	1.定期的 に実施	300		通報のマニュアルを園外のリニューアルで取り替えていた。この際、通達を間違えていたことが原因で、事故対応マニュアルが園外へ出かける。	事故対応マニュアルを園外のリニューアルで取り替えていた。この際、通達を間違えていたことが原因で、事故対応マニュアルが園外へ出かける。	1.集団 活動中・見守り	木の根があることや、踏みしめると木が揺れることを見つけて、走って逃げようとした。		1.いつもよりおどりの様子であった	落ち葉で見えづらくなり、木の根が踏みしめると木が揺れることを見つけて、走って逃げようとした。	2.対象児を見ていなかった	鬼から逃げようとした。		一緒に水風船を飛ばしていた。保育士は水風船を飛ばすところを見守っていたが、水風船が顔に当たったため、すぐさま手を離した。水風船が目を刺さった。				
10221	令和6年3月21日	認可	認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				10	9			3	3	17.5歳	1.男児	4, 5歳児、同じ保育室で過ごしているため、合同で運動(ダンス)を行った。	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2~3)回/年	2.基準配置	これまででは「お友達からぶつからないように気をつけて」という声かけをしてきたが、「手を広げるとぶつからない距離をとる」というように具体的に伝える。		1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(24)回/年		保育室で行う中で、園児と距離が近かったため、手探りでダンスを行う。合同で行う際は、手探りだったので、半手探りでダンスを行うなど、工夫をする。	保育室で行う中で、園児と距離が近かったため、手探りでダンスを行う。合同で行う際は、手探りだったので、半手探りでダンスを行うなど、工夫をする。	1.集団 活動中・見守り	ダンスの内容がわからなかったため、一度園児の間を覗いてみた。園児はダンスの内容がわからなかった。園児の間を覗いてみた。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	やや激しいダンスであったため、いつも以上の動きをしていた。	3.対象児から離れた場所で見守っていた	該当園児を見守っていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	写真撮影なども行っていた		他児と距離が近くなってしまっている時間帯に、園児の動きを見守っていた。園児同士の間を覗いてみた。	保護者用の写真や動画を職員が撮影しており、園児同士の間を覗いてみた。園児同士の間を覗いてみた。	他児と距離が近くなってしまっている時間帯に、園児の動きを見守っていた。園児同士の間を覗いてみた。
10222	令和6年3月21日	認可	認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯破折	8.その他	1.あり	1.定期的 に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	保育士は、子どもの行動を予想し、危険のないように声をかけ、事前に防ぐ。		1.定期的 に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的 に実施	実施頻度(6)回/年		広さを十分確保するよう、机を片付ける。	1.集団 活動中・見守り	降園前には、余裕があった。		1.いつもよりおどりの様子であった	広いスペースで体を動かして楽しんでいた。視界には他児が入っていたが、被災を防ぐことができた。	3.対象児から離れた場所で見守っていた	他の子と一緒に体を動かしていた。視界には他児が入っていたが、被災を防ぐことができた。	降園前と一緒だった。子どもも一緒に体を動かして楽しんでいた。子どもも一緒に体を動かして楽しんでいた。	降園前と一緒だった。子どもも一緒に体を動かして楽しんでいた。子どもも一緒に体を動かして楽しんでいた。	子どもは、運動が大好きで、遊びたいという気持ちから、遊びたいという気持ちを伝える。					

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの				事故状況 発生時状況	事故の転帰			事故誘因	事故発生要因分析					環境面 教育・保育・育成支援 状況	人的面 対象児の動き 理由	改善策	改善策	改善策	改善策	改善策	改善策	改善策	改善策	改善策																															
						人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 以上	学童 その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	死亡	転亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		ソフトウェアの有無	ソフト面	事故予防 実施頻度 【回/年】		職員配置	その他 要 事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度 【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度 【回/年】												玩具の安全点検 実施頻度 【回/年】	その他 要 事項																													
10247	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設教室内(室内)	7.異年齢構成	12				3	4	5	2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	足指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置						現在までの「ひやとり」報告を見直し、事故に関する意識・対策を再確認する	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			対象児の動きに関する認識の不足	事故に関する全職員への周知。この事故が起りうるという意識を持って子どもたちを見守る	1.集団活動中・見守りあり		たかさんの子どもたちが走って遊ぶときは、人数が多くなりすぎるようなので、走る以外の運動遊びの環境もつくる。	「てつなぎおにぎり」をしてではなく、転倒前に自然近くと手をつなぎ、走って転倒	1.いっもどおりの様子であった	3.対象児が離れたところで対象児を見守っていた	子どもたちから少し離れた見守り場所で見守っていた	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	子どもたちから少し離れた見守り場所で見守っていた		降園時は保護者対応等があるため、そのことも想定し、無理のない人員配置を行う。														
10248	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設教室内(室内)	5.4歳児クラス	17							2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯根折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置						引き続く研砕体は、全体会議の時に全体に周知。また、「ひやとり」報告があつた場合は、毎月の会議で、事故後の取り組みについてうまく機能しているか検討。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			床は濡れていない。室内の広さと敷物の枚数を、狭さすぎたという事はない。自主的な場所での遊びのために密接する可能性はあった。	1.集団活動中・見守りあり	密接している場合は十分に距離を取り、移動スペースを確保する。	1.いっもどおりの様子であった	絵を描き、担任に見せようという保育室内を移動していた	2.対象児が離れたところで見守っていた	当該園児がこちらをのぞいて見守っていた	2.担当者・対象児を見ていなかった	連携し、園児と関わっていた		歯根折後も転倒が続き、遊びの際は必ずそばに職員がつく。怪我をしにくく、怪我をなくする工夫や、怪我を予防するための工夫など、日々取り組んでいる。また、日々の活動中に子どもたちが怪我をしないよう配慮し、必要な経験が家庭でもできるように、保護者と密に情報交換を行い、意識と行動の変容を促す。																
10249	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設教室内(室内)	7.異年齢構成	11				2	3	6	1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	①上口唇創傷 ②外傷性歯臼 ③顔面打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置						危険管理マニュアルを見直し、特定の自由活動において、幼児が「直撃」をしないよう工夫している。また、子どもの自由活動の安全確保については、その中での活動の安全管理は厳密に実施している。また、子どもの自由活動時には、職員が常に周囲を巡回し、子どもの安全を確保するよう努めている。	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12	1.定期的実施	12			朝や夕方など、巧技台の横に職員がいない。人数が少ない時間帯には、巧技台(直線はしご)一本横、U字はしご)は使わない。	はじめは、はしごの両端に足を乗せ、歩いていくが、途中ははしごの足を乗せ、あるいて踏み外した。	1.いっもどおりの様子であった	道徳室にいた保育教諭は、全体を見ていなかった。見つけた保育教諭は、「ダウン」という音がした瞬間、園児に駆け寄り、けがの確認をした。	2.担当者・対象児を見ていなかった	口から血が出ていたため、ティッシュ等を使用して、止血し、緊急車を要請した。		全てのクラスで対象児が遊戯室で巧技台を指定する場合は、巧技台の横には必ず職員が付き、転倒防止をする。																			
10250	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	朝(始業～午前10時頃)	2.施設教室内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	5						2	14	14	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.腕・手・手指	右上腕骨骨折・右足指骨骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置														遊具には事故が起きていないようだが、通常の遊びでは見受けられなかった。	日常的に遊具・玩具等の点検を続ける。	職員に事故発生時のマニュアルの再確認をする。	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1	1.定期的実施	1		遊具には事故が起きていないようだが、通常の遊びでは見受けられなかった。	自由遊戯時間中も園児がひとりでも出てくる時は職員が必ず見守りを行っているが、当該遊具の付近には職員が居なかった。	ひとりでも出てくる時は職員が必ず見守りを行っているが、当該遊具の付近には職員が居なかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の子どもも出てきた。園庭内でも見守り、その様子を見ていた。	自由遊戯時間中も園児がひとりでも出てくる時は職員が必ず見守りを行っているが、当該遊具の付近には職員が居なかった。	職員の人材によって外遊び等は、職員が必ず見守りしている。また、職員の人材によって外遊び等は、職員が必ず見守りしている。											
10251	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設教室内(室内)	3.2歳児クラス	23							5	5	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	右母趾挫傷・右足皮膚細菌感染症・右足皮膚擦傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.定期的実施	12	1.基準以上配置																			テーブルの設置場所と遊びスペースの区分けが活動しにくい状況であった	保育室内でのテーブルの設置場所と遊びスペースの区分けが活動しにくい状況であった。危険がないよう定期的に点検を実施する	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日	1.定期的実施	毎日		活動前や活動中に点検を実施し、記録しておく。テーブルの置き場所を事前に調整し、安全に配慮する	危険リスクを考えた上で、テーブル設置スペースを確保しながら、園児の活動を行う	1.集団活動中・見守りあり		子ども達の発達機能と安全に配慮する	1.いっもどおりの様子であった	担任は、本児やクラスの活動を見守り、本児が活動する声掛けをした	1.担当者・対象児を見ていた	クラスでの活動をしている園児の様子を見守り、活動の片付けをする	子どもの発達機能と安全に配慮する	職員の人材によって外遊び等は、職員が必ず見守りしている。	

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの年齢 性別 特記事項					事故状況 発生時状況					事故発生の要因分析															掲載更新年月日																	
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士 児童支援員	事故状況 発生時状況	事故の転帰	診断名	事故原因	ハード面			改善策			環境面			人的面			改善策																										
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳						5歳以上	その他	死亡	負傷	受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】		玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	環境面 教育・保育・支援の状況	人的面 対象児の動き理由	改善策	他の職員 具体的な何をしていたか	改善策																		
10261	令和6年3月21日	認可 認可外	1. 幼保連携型認定こども園	17	午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	22	0歳 2	1歳 5	2歳 5	3歳 5	4歳 5	5歳 5	その他 5	2	17.5歳	1. 男児					1. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的	12	2. 基準配置	事故発生の可能性を事前に認識し、遊具の安全意識を高めることである		職員間の連携を図り、子どもの行動を予測し、遊びの安全性を確保することである	1. 定期的	12	1. 定期的	12	1. 定期的	12			1. 集団 活動中・見守り	遊びに夢中になり、周りが見えなかつたことと、対象児の動きを把握しなかつたことである	手を打ち付けたことや、痛みを訴えること、その後もボールや制作を行い、食事まで食べていた	子どもの動きを見ていて、保護者が呼ばれ、対応できなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児の受け入れをしており、遊びの場をみていなかった	対象児の動きから事故の原因を予測できなかった		早番の職員が対応した場合は、事務室職員とも言葉と掛け合い、見守り・安全意識を高めることである				
10262	令和6年3月21日	認可 認可外	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								1	17.5歳	1. 男児					1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期	1	2. 基準配置	園児への安全指導が行っていたが、どの職員でも共通で行えるように、遊具の使用方法を見直し、再作成した。		園児への安全指導が、どの職員でも共通で行えるように、遊具の使用方法を見直し、再作成した。	1. 定期的	12	1. 定期的	12	1. 定期的	毎日			1. 集団 活動中・見守り	2階園庭のコルクチップクッション性に留意して、遊具の安全性を確認した。	遊具に簡単に登れるため、手を離した際、バランスが崩れた。	3. 対象児の動きを見ていなかった	遊びの範囲と縄跳びに分かれた上で、縄跳びをしての子の対応であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くで職員は見ていなかった	5歳児は動きが速いことに加え、油断しやすいため、安全な遊び方を指導し、見守る。	遊具で遊ぶ際は、必ず1人近くにいるように、安全な遊び方を指導し、見守る。				
10263	令和6年3月21日	認可 認可外	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	99								7	15.3歳	1. 男児					1. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期	2	1. 基準以上配置	ヒヤリハット事例が共有されていない。研修参加後の報告が全職員に周知されていない。		ヒヤリハット事例が共有されていない。研修参加後の報告が全職員に周知されていない。	1. 定期的	2	1. 定期的	2	1. 定期的	毎日			1. 集団 活動中・見守り	雨の後のトンネルの周りを歩いている園児が、濡れた土の上を歩いていた。	トンネルの周囲を歩いている園児が濡れた土の上を歩いていた。	1. 集団 活動中・見守り	園庭の縁石と木柵の間を走り回っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児が走っていたのを確認できず、園児の安全な動きを見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の縁石・木柵等を走行していた	園児が走っていたのを確認できず、園児の安全な動きを見ていなかった	保育者が必ず1名を徹底して見守り、安全な遊び方を指導し、見守る。		
10264	令和6年3月21日	認可 認可外	1. 幼保連携型認定こども園	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14								3	15.3歳	1. 男児					1. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口・頬含む)	乳中切歯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的	1	1. 基準以上配置	基礎以上の職員で保育を行っており、職員配置は問題なかった。		基礎以上の職員で保育を行っており、職員配置は問題なかった。	1. 定期的	12	1. 定期的	12	1. 定期的	12			1. 集団 活動中・見守り	ハード面で破損等の危険な箇所はなかった。	ハード面で破損等の危険な箇所はなかった。	1. 集団 活動中・見守り	自由で階段の上り下りができる環境であった。	1. 集団 活動中・見守り	登園時より階段の様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児のそばにいたものの、別方向の園児の動きを見ていなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	概ね部屋全体をしっかりと見守れていた	園児全員を見守ることができたが、転倒に気づかず、手を差し伸べることができなかった	階段では、園児の転倒リスクを高め、これを改善して職員の手が届く位置に留意する。
10265	令和6年3月21日	認可 認可外	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	145								9	16.4歳	1. 男児					1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的	4	1. 基準以上配置	高い所からのジャンプなど危険な遊びをしないようにする。職員の見直しを行った。		高い所からのジャンプなど危険な遊びをしないようにする。職員の見直しを行った。	1. 定期的	12	1. 定期的	毎日	保育者の観察・見守り・指導による位置を確保した。	保育者の観察・見守り・指導による位置を確保した。	1. 集団 活動中・見守り	対象児の至近にいたことと、対象児の動きを見守ることができなかった	対象児の動きを見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	落下した際、気づいて、近くにいた保育者たちと見守りながら、近づくのを防いだ	職員の外遊びの立ち位置の見直しを行った。									

No	初回掲載年月日	概要 認可 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの年齢	性別	事故の特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰				事故誘因	事故発生の要因分析							環境面 教育・保育・支援体制	その他要因・分折・特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分折・特記事項	改善策	掲載更新年月日								
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位					診断名	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置		その他要因・分折・特記事項	改善策	ハード面		その他要因・分折・特記事項	改善策	環境面 教育・保育・支援体制										その他要因・分折・特記事項	改善策	人的面 対象児の動き理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分折・特記事項	改善策	
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上																5歳以上	その他																				施設的安全点検 実施頻度【回/年】
10286	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成								3	17.5歳	1.男児	アカ症事故の16日前に発熱(39.1℃)	2.室内活動中	1.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部)	小児頸椎回旋固定	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1~2	2.基準配置	マニュアルなし	2.基準配置	2.遊具的安全点検 実施頻度【回/年】	12	1.定期的 に実施	12	2.不定期 に実施	使用前後	自由遊びの中で様々な玩具が混在していた。	遊びの設定を行い、重宝を整理整頓し、活動できるように配置を直す。	3.個人活動中・見あり	活動場所が広がっていた。	玩具や場内整理し、遊ぶ場を工夫する。	時折、移動しながらブルーレーンとミニカーで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで見守っていた。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの動きに合わせて見守っていた。	廊下や他教員立ち回りに行ったりして見守っていた。	見守る職員立ち回り方について、職員会議で周知。	
10287	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス								3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯臼(LA)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2~3	1.基準以上配置	特になし	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1.集団活動中・見あり	一緒に活動している可能性があるが、本児のペースが他児よりも遅い状況であった。	2.対象児に近づくことを見守っていた。	本児の近くで見守っているが、本児のペースが他児よりも遅い状況であった。	2.担当者・対象児を見ていた	主任は全体的な子どもの姿を見ていた。1名は別の加配児童(園生活が難しい)を遊戯室内で見守っていた。	遊戯室では転倒の恐れを考慮し、保育者が手場守るよう注意している。			
10288	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成								2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯臼	5.他児を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	当日の職員配置の中で、子どもの姿・発達を考えた立ち位置、寄り添い、職員同士の連携。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	毎日	事故発生時の関係性はなかった。	幅広の視野をもつて、大きく活動的であった(理由を記載)。	3.いっしょに活動していたが、突っ込んでくる状況であった。	3.対象児から離れたところで見守っていた。	登園の受け入れをしていたこともあり、遠くから見守っていた状況であった。	2.担当者・対象児を見ていた	登園の受け入れをしながら、子どもを身辺整理していた。	「やめて！」とも同じように声をかけていた。	幅広い視野をもつて子どもを観察し、必要に応じて介入した。				
10289	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成								2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	職員配置も基準を満たしており特に改善は考えていない。	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	1	2.不定期 に実施	毎日	園庭から転落する可能性はあったが、危険回避の観点から、園庭の安全確保を優先して対応した。園庭の安全確保を優先して対応した。	1.集団活動中・見あり	学生を含めた異年齢クラスでの活動であり、職員同士の見守りや声掛けが不足している場合、特に声掛けを要する。	特に夕方の時間は職員配置が流動的であり、声掛けが不足している場合、特に声掛けを要する。	4.対象児の動きを見守っていた。	築山側にはいるが、他児と一緒で遊んでいた。	2.担当者・対象児を見ていた	園庭で他児の対応をしていたが、園庭の様子を確認していた。	築山から転落することはないが、必要に応じて介入した。	築山に子どもがいないことを確認し、必要に応じて介入した。			
10290	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成								5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部付根骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的 に実施	12	2.基準配置	固定遊具の事故予測はしているが、雲梯が遊べる子どもが遊んでいる時に、自ら取り組む力を見守ることが、危機感をもって見守りにつなげた。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	1	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	子どもが園庭に出る前に、固定遊具の確認や点検を行っていた。また、雲梯で遊ぶ子どもが遊べるよう、確認をしながら遊ばせていた。	1.集団活動中・見あり	子どもが園庭に出る前に、固定遊具の確認や点検を行っていた。また、雲梯で遊ぶ子どもが遊べるよう、確認をしながら遊ばせていた。	子どもが園庭に出る前に、固定遊具の確認や点検を行っていた。また、雲梯で遊ぶ子どもが遊べるよう、確認をしながら遊ばせていた。	雲梯で遊ぶ子どもが遊べるよう、確認をしながら遊ばせていた。	雲梯で遊ぶ子どもが遊べるよう、確認をしながら遊ばせていた。	雲梯をすする園児のすぐそばに寄り添い、体を支えられる距離で見守りをしていく。子どもの遊びに距離を近づけ、子どもの遊びの様子を確認し、必要に応じて介入した。					

No	初回掲載年月日	概要 認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	事故にあった子どもの状況											事故発生時の状況											事故発生時の要因分析											掲載更新年月日															
							人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	乳児	幼児	児童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	状況	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ハード面			ソフト面			職員配置	その他要因・特記事項	改善策	環境面			人的面			改善策										
																														施設安全点検 実施頻度 【回/年】	遊具安全点検 実施頻度 【回/年】	玩具安全点検 実施頻度 【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況				その他要因・特記事項		改善策	対象児の動き理由	担当職員の見守り	他の職員の見守り		その他要因・特記事項	改善策								
10325	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23																2	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(ひび)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	マニピュールの共有を全職員で行う。				1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12			引き続き、安全点検を行う。	3.個人活動中・見守り		一人一人の遊びを見守ると共に、危険な環境がないよう注意する。	1.いつもの様子であった	いつも遊んでいた	3.対象児が離れたところで対象児を見守っていた	同じ保育室内におり、保育士が目を離した。けん玉で遊びながら、けん玉を遊ぶ時にけん玉が目を刺さった。	2.担当者・対象児の見守り	他の遊びのグループに入り、保育士を見守っていた。		子どもが遊ぶ場合は必ず職員が見守る。
10326	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.夕方(16時頃～夕食提供前)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18																1	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	身体機能に配慮が必要で、本人の意思が汲み取れていないことが原因と見られる。本人の見守り体制を強化し、危険な動きを未然に防ぎたい。また、保育士の配置を適切に確保し、危険な動きを見守りたい。	全体を見守りながら遊ぶように指導し、危険な動きを未然に防ぎたい。また、保育士の配置を適切に確保し、危険な動きを見守りたい。	1.定期的 48	1.定期的 毎日	毎日	1.定期的 毎日			ソフト種木は遊具規定を厳格に守り、遊具の点検を実施している。また、遊具の点検記録を厳格に管理し、異常があればすぐに修理を行う。	1.集団活動中・見守り		午睡はなし。午睡後は、午睡室で静かに過ごす。午睡後は、午睡室で静かに過ごす。	1.いつもの様子であった	繰り返しの運動遊びをするため、つい走り回ってしまう。	4.対象児の動きを見守っていた	全体の様子を見守りながら遊ぶように指導し、危険な動きを未然に防ぎたい。また、保育士の配置を適切に確保し、危険な動きを見守りたい。	1.担当者・対象児の見守り	主担任は個人面談があり、保育士と連携して見守っていた。		一人では保育士が一人で遊ばせることは難しいと判断し、必ず職員が見守るように指導した。		
10327	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29																2	2.室内活動中	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 4	1.基準以上配置				1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12				1.集団活動中・見守り		特になし	特になし	1.いつもの様子であった	次の運動遊びをするため、つい走り回ってしまう。	3.対象児の動きを見守っていた	全体の様子を見守りながら遊ぶように指導し、危険な動きを未然に防ぎたい。また、保育士の配置を適切に確保し、危険な動きを見守りたい。	1.担当者・対象児の見守り	分散した位置にいた	足元に物が落ちていないことを確認し、危険な動きを未然に防ぎたい。		ボール遊びを禁止しているが、転倒による怪我を防止するため、ボール遊びを禁止している。
10328	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10.3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	81																7	8.その他	1.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足側背骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的 4	1.基準以上配置				1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12	1.定期的 12				1.集団活動中・見守り		特になし	特になし	1.いつもの様子であった	普通に歩いていた。	4.対象児の動きを見守っていた	布団敷のお手伝いをしている園児の様子を見守りながら遊ぶように指導し、危険な動きを未然に防ぎたい。また、保育士の配置を適切に確保し、危険な動きを見守りたい。	2.担当者・対象児の見守り	分散した位置にいた			
10329	令和6年3月21日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12.2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12																	2.室内活動中	1.負傷	1.意識不明	5.下肢(足・足指)	熱性けいれん	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	当事案について対応の確立を図る。関係職員に聞き取りを行い、問題提起。今後の対応について全職員で見直しや確認を行う。			1.定期的 2	1.定期的 12	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施				3.個人活動中・見守り		特になし	特になし	1.いつもの様子であった	休み明けころ、様子を見ていた	3.対象児が離れたところで対象児を見守っていた	子どもを全体的に把握するために、すぐに対応できるように見守っていた	2.担当者・対象児の見守り	すぐに対応できるように見守っていた	子どもたちの遊びの様子を全体的に把握し、危険な動きを未然に防ぎたい。	他クラスの職員は、対応の遅いなど、職員間で共有した。	

No	初 期 検 査 年 月 日	概 要	施設・事 業 所 種 別	事故発生時 期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況 発生時状 況	事故の転帰				事故発生の要因分析							掲 載 新 年 月 日														
						人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事 者 うち 保 育 教 諭 ・ 幼 稚 園 教 諭 ・ 保 育 士 ・ 放 課 後 児 童 支 援 員	年齢	性別	特記事項	死亡	負傷		負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	ハード面		用具の安全点検		玩具の安全点検		その他要 因・分 析、特 記 事項		改善策	環境面		人的面		改善策								
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上							学年					その他	マニュアルの有 無	施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その 他 要 因・分 析、特 記 事項				改善策	対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか		その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策						
						人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	学年	その他	年齢	性別	特記事項	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故 誘因	マニュアルの有 無	施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その 他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況		改善策	対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策								
10330	令和 6年3 月21 日	1.認可 1. 幼保連 携型認定 こども園	97.午後	3.施設敷 地外(園外 公園等)	6.5歳以上 児クラス	25										2		1	18.6歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左小指基 節骨折	2.自らの 転倒・衝突に よるもの	1.あり	2.不定期に実 施	1	2.基準配 置	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策
10331	令和 6年3 月21 日	1.認可 1. 幼保連 携型認定 こども園	112.午前中	1.施設敷 地内(室内)	6.5歳以上 児クラス	18										1		1	18.6歳	1.男 児	2.室内活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左手小指 付け根部分 の骨折	2.自らの 転倒・衝突に よるもの	1.あり	1.定期的に実 施	1	2.基準配 置	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策
10332	令和 6年3 月21 日	1.認可 1. 幼保連 携型認定 こども園	127.午後	1.施設敷 地内(室内)	7.異年齢 構成	25	5	##								6		6	13.1歳	2.女 児	2.室内活 動中	1.負傷	6.その他	2.顔面(口 腔内含む)	顔面打撲、 二次感染を 伴う怪傷 (眼瞼 開)、右眼 球打撲傷、 右外眼 筋筋断裂、 顔面皮 膚欠乏症	2.自らの 転倒・衝突に よるもの	1.あり	1.定期的に実 施	1	2.基準配 置	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策
10333	令和 6年3 月21 日	1.認可 1. 幼保連 携型認定 こども園	108.夕方(16 時頃~夕 食提供前 頃)	1.施設敷 地内(室内)	7.異年齢 構成	3			2	1						1		1	17.5歳	2.女 児	7.登園・ 降園中(来 所・帰宅 中)	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左上腕上 骨骨折	2.自らの 転倒・衝突に よるもの	1.あり	1.定期的に実 施	2	2.基準配 置	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策
10334	令和 6年3 月21 日	1.認可 1. 幼保連 携型認定 こども園	97.午後	1.施設敷 地内(室内)	6.5歳以上 児クラス	18										1		1	17.5歳	2.女 児	2.室内活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左上腕骨 骨折	2.自らの 転倒・衝突に よるもの	1.あり	2.不定期に実 施	1	2.基準配 置	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策
10335	令和 6年3 月21 日	1.認可 1. 幼保連 携型認定 こども園	122.午前中	2.施設敷 地内(室 外・園庭・ 校庭等)	5.4歳児ク ラス	32										3		3	17.5歳	1.男 児	1.屋外活 動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢 (腕・手・ 手指)	左上腕骨 上骨骨折	1.遊具 等からの 転落・落 下	1.あり	1.定期的に実 施	3	2.基準配 置	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	ハード面 施設 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	遊 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	玩 具 の 安全 点 検 実 施 頻 度 【回/年】	その他要 因・分 析、特 記 事項	改善策	環境面 教育・保 育・支 援の状 況	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員 の動き 何を して いたか	他の職員 の動き 何を して いたか	その他 要 因・分 析、特 記 事項	改善策